

(3) 専門分野【基礎看護学】

【ねらいと構成】

基礎看護学は、看護の基盤として位置づけ、看護学の根幹をなす看護の本質と看護の基本技術を学ぶ。
 基礎看護学では、対象を身体的、精神的、社会的に統合された存在として理解するために、看護の本質を学び、患者・医療従事者との関わりが自然に持てるようなコミュニケーション力を育む。また、科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な判断ができるよう看護の展開方法や臨床判断の基礎を学ぶ。日常生活援助技術では、事例を用いて対象の安全・安楽・自立/自律を考えた援助方法を考え実践する。
 看護の基礎実習では、対象に必要な看護を考え、看護を展開する基礎を築いていく。

専門分野	基礎看護学	看護学原論	1単位 30時間	プロジェクト学習の方法と意義の理解、看護の役割と機能、看護における倫理、看護活動のしくみ
		看護基本技術	1単位 30時間	看護技術の概念 看護場面に共通する観察・記録・報告及び安全と安楽についての技術
		コミュニケーション	1単位 30時間	効果的かつ適切なコミュニケーションスキル カンファレンスの運営方法
		フィジカルアセスメント	1単位 30時間	フィジカルアセスメントの基本技術 バイタルサインの測定、系統別フィジカルアセスメント
		日常生活援助技術Ⅰ	1単位 30時間	環境を調整する援助技術 運動と休息に関する援助方法
		日常生活援助技術Ⅱ	1単位 30時間	身体の清潔と衣に関する援助方法
		日常生活援助技術Ⅲ	1単位 30時間	食と排泄に関する援助方法
		診断・治療を助ける援助技術Ⅰ	1単位 15時間	診察と感染予防に関する援助技術 呼吸と循環を整える援助技術
		診断・治療を助ける援助技術Ⅱ	1単位 30時間	与薬と検査に関する援助技術
		看護を展開する技術	1単位 30時間	対象の見つめ方と看護を展開する方法
		臨床判断の基礎	1単位 30時間	科学的根拠に基づいた臨床判断を行う方法
	臨地実習	看護の基礎実習Ⅰ	1単位 45時間	【基礎看護学実習】 受持患者に必要な日常生活援助を実践し、患者を理解し必要な看護を考える 受持患者に必要な看護を理解し、受持患者の看護を計画的に展開する 臨床判断を活用し、受持患者にとって必要な看護を考える
		看護の基礎実習Ⅱ	2単位 90時間	
		看護の基礎実習Ⅲ	2単位 90時間	
		暮らしを支える看護実習	2単位 90時間	
		健康危機状況の看護実習	2単位 90時間	
		人生の最終段階の看護実習	2単位 90時間	
		専門職連携実習	2単位 90時間	
		高齢者の生活を支える看護実習	2単位 90時間	
		こどもの成長発達と健康を支える看護実習	2単位 90時間	
		生命の育みを支える看護実習	2単位 90時間	
		心の健康と生活を支える看護実習	2単位 90時間	
		看護の統合実習	2単位 90時間	

66
単位

23
単位

科目群: 専門分野【基礎看護学】

4年度 第1学年	授業 科目	看護学原論	担当 教員	深谷 英子	単位(時間数)	1(30)
					担当時間数	30
学習目的・目標	目的: 看護学の導入として看護の全体像を理解し、今後の学習活動につながる考え方や姿勢を身につける。 目標: 1. プロジェクト学習の方法と意義を理解し、「意志ある学び」を身に着ける。 ①「大切な人」の健康課題を発見することができる。 ②目標を設定し、目標を達成するための計画を立案できる。 ③情報を分析し、根拠をもって、問題を解決できるよう取り組むことができる。 ④自己の成果物をプレゼンテーションでき、自己評価・他者評価することができる。 2. 看護をするために必要な「看護」「人間」「健康」「病気」「生活」についての考え方を理解することができる。 3. 看護の役割と機能について理解することができる。 4. 看護実践の基盤となる看護技術、看護倫理、保助看法について理解することができる。 5. チーム医療と看護の役割について理解することができる。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1-1.ナースプロジェクト ・ナースの眼差しを持つプロジェクト(ナースプロジェクト) ゴール「大切な人の健康を守るための提案をしよう」 ・ナースの眼差しとは	講義	教室		
2	/	2-1.看護の対象である人間とは	講義	教室		
3	/	1-2.ナースプロジェクト ・「ビジョン」「ゴール」を設定し、ゴールシートに記入 ・「大切な人」の健康課題とその原因を明らかにする。	講義	教室	「大切な人」の複数人の観察をし、一人に絞ってくる。	
4	/	2-2.人間の健康と生活とは	講義	教室		
5	/	1-3.ナースプロジェクト ・情報・解決策、計画書の作成	講義	教室	「大切な人」の情報を収集してくる。	
6	/	2-3.人間の健康と病気とは	講義	教室		
7	/	2-4.看護とは何か ・看護とは、看護師とは ・三重の関心	講義	教室		
8	/	3.看護の機能と役割 ・看護の変遷、ナースとヘンダーソン	発表会	教室		
9	/	4.看護実践の基盤 ・看護技術、看護倫理、保助看法	講義	教室	事例をもとに看護倫理について考える	
10	/	5.チーム医療と看護	講義	教室	プレゼンの下書きを提出	
11	/	1-4.ナースプロジェクト ・「大切な人の健康を守るための提案」をプレゼンテーション	発表会	講堂	模造紙1枚に記入	
12	/	6-1.西尾市民病院施設見学 ・病院の概要と看護の役割【看護部長】	施設見学	病院		
13	/	6-2.西尾市民病院施設見学 ・施設内見学	施設見学	病院	施設見学のレポート提出	
14	/	1-5.ナースプロジェクト ・「凝縮ポートフォリオ」の評価会	評価会	教室	A3用紙1枚に凝縮ポートフォリオ提出	
15	/	授業のまとめ、成長確認		教室	成長エントリーシート、成長報告書提出	

評価方法	提出物80%、授業参画20%で評価します。 発表会20点、凝縮ポートフォリオ20点、成長報告書5点、施設見学レポート15点、その他提出物40点
教科書	講談社 『ナースがみる病気』 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 『看護学概論』 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 『基礎看護技術Ⅰ』 現代社 『看護覚え書』 西東社 『ナイチンゲールの看護覚え書 イラスト・図解でよくわかる』
参考書	日本看護協会出版会 『看護の心を科学する』 日本看護協会出版会 『科学的看護論』
履修上の留意点	・授業の理解を深めるための事前学習課題はほぼ毎回あります。そのつもりで計画的に学習をしましょう。 ・提出物は8:50に提出です。1時限目の授業がない場合は、授業がスタートする時間の10分前に提出です。提出遅れの場合、提出時間までに事前連絡をしてください。事前連絡がなければ課題点はありません。

科目群: 専門分野【基礎看護学】

4年度 第1学年	授業 科目	看護基本技術	担当 教員	近藤 ゆかり 杉山 敏江	単位(時間数) 担当時間数	1(30) 30
【近藤ゆかり】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験 6年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務での看護経験に基づいて、看護技術を支える要素について講義する。				
【杉山敏江】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験12年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務での看護の経験に基づいて、看護技術の具体的な方法を講義・演習に取り入れている。				
学習 目的・ 目標	目的: 看護技術の概念と看護場面に共通する観察・記録・報告及び安全と安楽についての技術を学ぶ。 目標: 1. 看護技術と看護技術を支える要素について理解できる。 ①看護技術の概念を理解できる。 ②医療安全について理解し、感染防止策を実践できる。 ③看護倫理について理解し、看護場面における対象への説明や配慮、安全・安楽・自立を考える必要性を理解できる。 ④看護技術の提供における観察・記録・報告について理解できる。 2. 看護の基本となるボディメカニクスの原理を理解し、その方法を身につける。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	1. 技術の学習方法について 1)看護基本技術の位置づけなど	講義	教室	近藤	
2	/	2. 看護技術とは何かを理解できる 3. 自分の1日の生活を知る 4. 自己紹介のための資料を作成	講義	教室	近藤	レポート
3	/	5. 倫理について考える 1)倫理観って何?	講義	教室	近藤	レポート
4	/	6. クラスメイトを知ろう 7. クラスメイトの一日の生活を知ろう	講義	在宅実習室	近藤	レポート
5	/	8. 論理的に考えることを始めよう 1)看護記録をかいてみよう	講義	教室	近藤	レポート
6	/	9. リフレクションをしてみよう 1)リフレクション用紙を書いてみよう	講義	実習室	近藤	レポート
7	/	10. 看護技術について 1)安全・安楽・自立/自律について	講義	実習室	近藤	レポート
8	/	11. ボディメカニクス技術の基本	講義	実習室	杉山	事前課題
9	/	12. 感染予防 1)感染予防の三原則	講義	教室	杉山	事前課題
10	/	2)感染予防の具体的方法 ・スタンダードプリコーションに基づく手洗い ・擦式消毒用アルコール製剤を使用した手指消毒 ・防護用具の取り扱い方法	講義	教室	杉山	事前課題
11 12	/	3)感染予防の具体的方法の実践	校内 実習	実習室	杉山	事前課題 校内実習後のレポート
13 14	/	13. 身体各部の測定 1)身体計測の目的と留意事項 2)身体計測の実践	講義 校内 実習	実習室	杉山	事前課題 校内実習後のレポート
15	/	試験、授業のまとめ		教室	杉山	
評価方法	レポートと試験で総合評価します。配点は100点です。 (1～7回の範囲がレポート評価50点、8～14回の範囲が筆記試験45分で50点) レポートの提出状況、内容も評価に反映します。					
教科書	①医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ『基礎看護技術Ⅰ』基礎看護学② ②医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ『基礎看護技術Ⅱ』基礎看護学③ ③医学書院『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版』					
参考書						
履修上 の 留意点	授業に必要なテキスト、物品などを忘れないように注意してください。 校内実習に際しては、看護者役・患者役を体験します。 実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。					

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群:専門分野【基礎看護学】

4年度		授業科目	コミュニケーション	担当教員	石川 暁美	単位(時間数)	1(30)	
第1学年						担当時間数	30	
学習目的・目標	目的：	看護師として医療の現場で効果的かつ適切なコミュニケーションスキルを学ぶ。						
	目標：	1. コミュニケーションの特徴と看護・医療におけるコミュニケーションの重要性を理解する。						
		2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、適切なメッセージを伝える方法を学ぶ。						
		3. 医療専門職の一員として、多職種との連携・協働を図るために必要なコミュニケーションを学ぶ。						
		4. カンファレンスの必要性和適切な運営方法を学ぶ。						
回数	月日	学習内容				方法	場所	課題
1	/	1. コミュニケーションの意義と目的 1)コミュニケーションとは 2)看護・医療におけるコミュニケーション				講義	教室	
2	/	2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 1)コミュニケーション手段 2)看護師として備えるべきコミュニケーション能力向上のために				講義	教室	
3	/	3. 効果的なコミュニケーションの実際 1)傾聴の技術 2)声を届ける技法(竹内レッスン)				講義 演習 ロール プレイ	教室	
4	/	4. コミュニケーションの基本スキル(個人編) 1)自分を知り、自分を表現する 2)相手を理解し、相手と関係を築く				講義	教室	
5	/	5. コミュニケーションの基本スキルの活用 1)聴き上手になるために				講義 演習	教室	
6	/	6. コミュニケーションの基本スキル(集団編) 1)カンファレンスの種類・特徴 2)実習前の準備:役割の決定、テーマの選び方、カンファレンスの運営方法				講義	教室	課題提示
7	/	7. ショートカンファレンスの模擬体験と見学				講義	教室	
8	/	8. ショートカンファレンスの模擬体験 進め方をまとめて再度挑戦				講義	教室	
9	/	9. プロセスレコード 歴史、特徴、再構成 看護場面のプロセスレコードの書き方				講義	教室	
10	/	10. プロセスレコードを使って看護場面を振り返る 1)相手との対人関係、看護の視点からみた対人関係 2)ケースカンファレンスの進め方				講義	教室	課題提示
11	/	11. ケースカンファレンスを模擬体験する 1)大腸がん患者の事例 全体像理解				講義	教室	
12	/	2)事例を読む				講義	教室	
13	/	3)脳梗塞の事例 全体像理解				講義	教室	
14	/	4)事例を読む				講義	教室	
15	/	試験、授業のまとめ					教室	
評価方法		試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施します。配点は筆記試験80点、課題20点で評価します。						
教科書		①医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ『基礎看護学技術Ⅰ』基礎看護学② ②メヂカルフレンド社『知識と実践がつながる看護学生のためのコミュニケーションLesson』奥山美奈						
参考書		医歯薬出版『仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス』						
履修上の留意点								

科目群:専門分野【基礎看護学】

4年度	授業科目	フィジカルアセスメント	担当教員	石川 暁美	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験17年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務の看護の経験で培った対象のアセスメント技術を、体験的に学べるように演習形式で行っている。				
学習目的・目標	目的： 系統別フィジカルアセスメント方法を知り、臨床の看護ケアに活かす基礎能力をつける。 目標： 1. フィジカルアセスメントの基本技術を修得する。 2. バイタルサイン測定の必要性を理解し、正常と異常の判断ができる。 3. 系統別フィジカルアセスメントを理解できる。 4. 臨床の看護ケアに活かすためのフィジカルアセスメントを理解できる。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. フィジカルアセスメントの概要 ・フィジカルアセスメントの意義、健康暦のインタビュー 2. フィジカルアセスメントの基本技術 ・視診、触診、打診、聴診 ・フィジカルアセスメントの原則	講義 校内実習	実習室		
2	/	3. バイタルサイン ・体温	講義 校内実習	実習室	事前課題	
3	/	4. バイタルサイン ・脈拍、呼吸	講義 校内実習	実習室		
4	/	5. バイタルサイン ・血圧	講義 校内実習	実習室	事前課題	
5	/	6. 呼吸のフィジカルアセスメント ・呼吸音の聴取、異常呼吸音の聴診	講義 校内実習	実習室	事前課題	
6	/	7-1. 循環のフィジカルアセスメント ・4つの弁領域の聴診、Ⅰ音・Ⅱ音の鑑別 ・心雑音、異常心音	講義 校内実習	実習室	事前課題	
7	/	7-2. 循環のフィジカルアセスメント ・頸動脈の触診・聴診、頸静脈の視診 ・末梢循環(チアノーゼ、浮腫)	講義 校内実習	実習室		
8	/	8. 腹部のフィジカルアセスメント ・腹部の視診、触診、打診、聴診	講義 校内実習	実習室	事前課題	
9	/	9. 頭頸部のアセスメント ・頭頸部のリンパ節、甲状腺	講義 校内実習	実習室	事前課題	
10	/	10-1. 脳神経のフィジカルアセスメント ・意識 ・脳神経	講義 校内実習	実習室	事前課題	
11	/	10-2. 脳神経のフィジカルアセスメント ・運動機能 ・反射 ・感覚	講義 校内実習	実習室	事前課題	
12	/	11. 筋・骨格のフィジカルアセスメント ・ROM, MMT	校内実習	実習室	事前課題	
13・14	/	12. バイタルサインの測定と呼吸音聴取(技術チェック)	講義 校内実習	実習室		
15	/	試験、授業のまとめ				
評価方法	筆記試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施します。配点は筆記試験60点、課題40点で評価します。					

教科書	メディックメディック 『看護がみえる フィジカルアセスメント vol. 3』 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 『基礎看護技術Ⅰ』 基礎看護学②
参考書	
履修上の留意点	校内実習における留意点 前日の授業後に準備をし、当日の授業後に片づけをします。詳しい指示は、掲示板で掲示します。 演習は学校指定のジャージで行います。頭髪は白衣に順じますので、身だしなみを整えてください。 技術チェックは、技術チェック導入後2～3週間後に実施します。計画的に練習しましょう。 技術チェックは、合格できなければ再試験を実施し合格できるまで行う。

科目群：専門分野【基礎看護学】

4年度	授業科目	日常生活援助技術Ⅰ	担当教員	杉山 敏江 伴 ひろみ・鈴木 陽子	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
【杉山敏江】						
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験12年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務の看護の経験に基づいて、療養環境を整える具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。				
【伴ひろみ】						
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験11年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務の看護の経験に基づいて、運動と休息を整える具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。				
【鈴木陽子】						
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験14年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務の看護の経験に基づいて、運動と休息を整える具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。				
学習目的・目標	目的： 看護場面に必要な基本となる援助技術を学ぶ。 目標： 1. 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を修得する。 2. 健康にとって運動・休息とは何かを理解する。 3. 運動と休息のバランスを整えるための援助方法を修得する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	1. 療養生活の環境 ・人と環境 ・療養生活と環境 ・生活環境の調整 2. 病室の環境のアセスメントと調整	講義	教室	杉山	
2 3	/	3. 病床を整える ・ベッドメイキングの実施	校内実習	実習室	杉山	・事前課題 ・校内実習後のレポート
4 5	/	・臥床患者のシーツ交換の実施	校内実習	実習室	杉山	・事前課題 ・校内実習後のレポート
6	/	4. ベッド周囲の環境整備	校内実習	実習室	杉山	・校内実習後のレポート
7	/	5. 活動・運動 ・活動・運動の生理学的メカニズム ・活動・運動のニーズについてアセスメントする	講義	教室	伴	・事前課題
8	/	6. 休息・睡眠 ・休息・睡眠の生理学的メカニズム ・休息・睡眠のニーズについてアセスメントする	講義	教室	伴	・事前課題
9 10	/	7. 活動・運動を促す援助方法 (条件設定：麻痺のある患者) ・ベッド上での移動 ・体位変換 ・安楽な体位の工夫	校内実習	実習室	伴	・事前課題 ・校内実習後のレポート
11 12	/	・車椅子への移動・移乗 ・ベッドの移送 ・歩行・移動介助	校内実習	実習室	伴	・校内実習後のレポート
13	/	8. リラクゼーションを促す技術 看護に使えるリフレクソロジー	校内実習	実習室	伴	・校内実習後のレポート
14 15	/	『臥床患者のシーツ交換』 技術チェック	校内実習	実習室	杉山	
評価方法	筆記試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は100点です。 (配点は1～6回の範囲が20分で45点、7～13回の範囲が25分で55点) 試験は、講義時間外の時間で実施します。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ『基礎看護技術Ⅱ』 基礎看護学③ 医学書院『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』					
参考書						
履修上の留意点	授業に必要なテキスト、物品などを忘れないように注意してください。 校内実習に際しては、看護者役・患者役を体験します。 実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。 技術チェックは、技術チェック導入後2～3週間後に実施します。計画的に練習しましょう。 技術チェックは、合格できなければ再チェックを実施し合格できるまで行います。					

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群: 専門分野【基礎看護学】

4年度	授業科目	日常生活援助技術Ⅱ	担当教員	近藤 ゆかり	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験 6年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院での臨床経験をもとに培った看護技術から、清潔ケアの方法について講義する。				
学習目的・目標	目的: 看護場面に必要な清潔に関する基本となる援助技術を学ぶ。 目標: 1. 身体の清潔への援助の必要性を理解し方法論を修得する。 2. 衣生活に関する援助の必要性を理解し方法論を修得する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1・2	/	1. 授業の全体が理解できる 2. 清潔の意義を解釈する 3. 皮膚・粘膜の構造を解釈する 4. 清潔援助の種類を解釈する 5. 清拭を実施する 6. 寝衣交換を実施する	講義 校内実習	教室 実習室	基礎看護技術Ⅱ P170～177までを読む。 清拭のDVDや動画を観てくる。	
3・4	/	7. 洗髪の実施	校内実習	実習室	洗髪のDVDや動画を観てくる。	
5・6	/	8. 足浴の実施	校内実習	実習室	足浴のDVDや動画を観てくる。	
7	/	9. 安全な清潔ケアを考える	校内実習	実習室		
8	/	10. 安楽な清潔ケアを考える 11. 安楽な清潔ケアを考え、実施する	校内実習	実習室	清拭が行えるようにしてくる。	
9・10	/	12. 頭皮、頭髮の清潔ケアがなぜ必要か考え実施する	校内実習	実習室	洗髪が行えるようにしてくる。	
11	/	13. 足浴の清潔ケアがなぜ必要なのか考え、実施する	校内実習	実習室	足浴が行えるようにしてくる。	
12・13	/	14. 技術テストの清潔ケアのデモンストレーションから方法を考え、実施する 15. 技術チェックオリエンテーション	校内実習	実習室	清拭が行えるようにしてくる。	
14・15	/	清拭の技術チェック		実習室		
評価方法	レポート40点、筆記試験60点で評価します。 試験は、講義時間外の時間で実施し、試験時間は45分です。 レポートの提出状況、内容も評価に反映します。 再試験は、筆記試験のみで行います。					
教科書	①医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 『基礎看護技術Ⅱ』 基礎看護学③ ②医学書院 『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』					
参考書	①医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 『皮膚』 成人看護学⑫ ②医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 『解剖生理学』 人体の構造と機能①					
履修上の留意点	実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、授業に臨んでください。 校内実習に際しては、看護師役・患者役を体験します。 前日の授業後に必要物品の準備をし、当日の授業後に片づけをします。 毎回、レポート課題があります。 13回目の技術チェックオリエンテーション後、2～3週間後に試験日を予定します。計画的に練習してください。					

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群: 専門分野【基礎看護学】

4年度		授業科目	日常生活援助技術Ⅲ	担当教員	加藤 美佑紀	単位(時間数)	1(30)
第1学年						担当時間数	30
授業科目に関連した実務経験の内容			看護師臨床経験8年				
実務経験を活かした実践的な授業内容			病院勤務の看護の経験に基づいて、食と排泄ケアの具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。				
学習目的・目標	目的：看護場面に必要な食と排泄のバランスを整えるための基本となる援助技術を学ぶ。 目標：1. 健康レベルや食行動の自立度に応じた食事・栄養摂取に関する援助方法を修得する 2. 人間の排泄に関するメカニズムを理解し、患者が健康な生活を送るために必要な援助方法を修得する						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	食事援助の基礎知識 1. 食の意義 2. 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 1) 栄養状態のアセスメント 2) 水分・電解質バランスのアセスメント 3) 食欲のアセスメント 4) 摂取・嚥下能力のアセスメント 5) 摂食行動のアセスメント 6) 食生活変更の必要性、患者の認識・行動のアセスメント 3. 医療施設で提供される食事			講義	教室	
2	/	食事摂取の介助 1. 援助の基礎知識 2. 援助の実際			講義	教室	
3	/	＜食事介助の実施＞			校内実習	実習室	事前課題 校内実習後レポート
4	/	非経口的栄養摂取の援助 1. 経管栄養法 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 2. 中心静脈栄養法			講義	教室	
5 6	/	＜経鼻経管栄養法の実施＞			校内実習	実習室	事前課題 校内実習後レポート
7	/	自然排尿および自然排便の介助 1. 自然排尿および自然排便の基礎知識 1) 排泄の意義 2) 排泄器官の機能と排泄のメカニズム 3) アセスメント 2. 自然排尿および自然排便の介助の実際 1) トイレにおける排泄介助			講義	教室	事前課題
8	/	2) 床上排泄援助 ＜便器を使った床上排泄援助の実施＞			講義 校内実習	実習室	事前課題 校内実習後レポート
9 10	/	排便を促す援助 1. グリセリン浣腸の援助の基礎知識 ＜グリセリン浣腸と床上で便器を用いた排泄援助の実施＞			講義 校内実習	実習室	事前課題 校内実習後レポート
11	/	＜摘便の実施＞ ＜坐薬の実施＞			校内実習	実習室	事前課題 校内実習後レポート
12	/	導尿 1. 一時的導尿・持続的導尿 ・援助の基礎知識			講義	教室	
13 14	/	＜一時的導尿の援助の実施＞			校内実習	実習室	事前課題 校内実習後レポート
15	/	試験、授業のまとめ				教室	
評価方法		筆記試験と課題で総合評価します。配点は100点です。試験は45分で実施します。					
教科書		医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ『基礎看護技術Ⅱ』 基礎看護学③ 医学書院『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』					
参考書		メディックメディア『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』 メディックメディア『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』					
履修上の留意点		授業に必要なテキスト、物品などを忘れないように注意してください。 校内実習に際しては、看護者役・患者役を体験します。 実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。					

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群：専門分野【基礎看護学】

4年度 第1学年	授業 科目	診断・治療を助ける援助技術Ⅰ	担当教員	杉山 敏江	単位(時間数)	1(15)
					担当時間数	15
授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験12年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務での看護の経験に基づいて、看護援助の具体的な方法を講義・演習に取り入れている。				
学 習 目 的 ・ 目 標	目的： 看護場面に必要な診断・治療の援助技術を学ぶ。 目標： 1. 感染予防の具体的な援助方法を修得する 2. 呼吸・循環を整える援助方法を修得する					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 診察と看護 ・診察の介助の目的 2. 無菌操作 ・無菌操作の基礎知識 ・対策の実際	講義	教室	事前課題	
2 3	/	<無菌操作の実施>	校内実習	実習室	事前課題 校内実習後のレポート	
4	/	3. 包帯法 ・援助の基礎知識 ・援助の実際 <包帯法の実施>	講義 校内実習	実習室	校内実習後のレポート	
5	/	4. 呼吸・循環を整える技術 ・酸素療法 ・体位ドレナージ ・吸引(口腔・鼻腔) ・吸入	講義	教室	事前課題	
6 7	/	<酸素吸入、ネブライザー吸入、口腔・鼻腔吸引の実施>	校内実習	実習室	事前課題 校内実習後のレポート	
8	/	試験		教室		
評価方法	筆記試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施します。配点は試験が80点、課題が20点です。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ『基礎看護技術Ⅰ』 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ『基礎看護技術Ⅱ』 基礎看護学③ インターメディカ『写真でわかる臨床看護技術①』 インターメディカ『写真でわかる臨床看護技術②』 医学書院『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』					
参考書						
履修上 の 留意点	授業に必要なテキスト、物品などを忘れないように注意してください。 校内実習に際しては、看護者役・患者役を体験します。 実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。					

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群: 専門分野【基礎看護学】

5年度	授業科目	診断・治療を助ける援助技術Ⅱ	担当教員	加藤 美佑紀	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験8年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務で培った看護技術に基づいて、診断・治療に必要な知識と技術の具体的な方法を講義・演習に取り入れている。				
学習目的・目標	目的： 看護場面に必要な診断・治療の援助技術を学ぶ。 目標： 1. 与薬の援助方法を修得する。 2. 検査の援助方法を修得する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 与薬 1) 与薬の目的 2) 各職種間の責任と権限 3) 薬剤の管理 2. 与薬の実際 1) 与薬の種類と特徴 2) 与薬時の留意事項	講義	教室		
2	/	3) 経口与薬法 4) 直腸内与薬法	デモンストレーション	実習室		
3	/	5) 注射法 6) 輸血管理	講義	実習室		
4	/	7) 注射法の実施 (1) 筋肉内注射法	校内実習	実習室		
6		(2) 皮下注射法	校内実習	実習室		
8	/	(3) 点滴静脈内注射法	校内実習	実習室		
10		(4) 点滴静脈内注射法の実施	校内実習	実習室		
12	/	3. 検査と看護 1) 検査の目的と種類 2) 検査における看護師の役割 3) 静脈血採血について	講義	教室		
13	/	4) 静脈採血の実施	校内実習	実習室		
15		試験、授業のまとめ	講義	教室		
評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は100点です。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ『基礎看護技術Ⅱ』基礎看護学③ インターメディカ『写真でわかる臨床看護技術①』 インターメディカ『写真でわかる臨床看護技術②』 医学書院『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』第2版					
参考書						
履修上の留意点	授業に必要なテキスト、物品などを忘れないように注意してください。 演習に際しては、看護者役・患者役を体験します。実習室は、臨床の場であることを認識し、服装・身だしなみを整え、役割になりきって行動し、学習しましょう。					

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群: 専門分野【基礎看護学】

4年度	授業科目	看護を展開する技術	担当教員	深谷 英子	単位(時間数)	1(30)	
第1学年					担当時間数	30	
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験8年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(循環器・外科病棟)での患者への看護経験に基づいて、看護を展開する技術を講義する。					
学習目的・目標	目的:対象の見つめ方と看護を展開する方法(道具の使い方)を学ぶ。 目標: 1. 看護過程の意味を理解する。 2. アセスメントの枠組みに沿った情報収集と解釈・分析ができる。 3. 関連図を描き、看護問題の抽出方法を理解する。 4. 看護計画を立案する方法を理解する。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	1. 看護過程とは 看護過程の基盤となる考え方			講義	教室	
2	/	2-1. 看護過程(A氏の事例) ・ゴードンの機能的健康パターンの理解			講義	教室	
3	/	2-2. 看護過程(A氏の事例)			講義	教室	
4	/	3-1. 看護過程(B氏の事例) ・心不全の病態を理解する			講義	教室	心不全の 事前学習
5	/	3-2. 看護過程(B氏の事例) ・情報を収集する			講義	教室	収集した情報 を整理する
6	/	3-3. 看護過程(B氏の事例) ・関連図の書き方 ・B氏の病態関連図			講義	教室	病態関連図を 書く
7	/	3-4. 看護過程(B氏の事例) ・B氏の病態関連図			講義	教室	
8	/	3-5. 看護過程(B氏の事例) ・アセスメントとは ・ゴードンの機能的健康パターン、パターン1のアセスメント			講義	教室	
9	/	3-6. 看護過程(B氏の事例) ・パターン2、3のアセスメント			講義	教室	パターン2、3 のアセスメント を提出
10	/	3-7. 看護過程(B氏の事例) ・パターン4のアセスメント(入院時)			校内実習	実習室	観察の視点と 根拠と方法を 考えてくる
11	/	3-8. 看護過程(B氏の事例) ・パターン4のアセスメント(第5病日)			校内実習	実習室	パターン4のア セスメントを提 出
12	/	3-9. 看護過程(B氏の事例) ・パターン5～11のアセスメント			講義	教室	パターン5～ 11のアセスマ ントを提出
13	/	3-10. 看護過程(B氏の事例) ・全体関連図、看護問題の明確化			講義	教室	全体関連図を 提出
14	/	3-11. 看護過程(B氏の事例) ・計画立案			講義	教室	計画を提出
15	/	3-12. 看護過程(B氏の事例) ・実施、評価、看護記録			講義	教室	
評価方法	提出物で評価します。						
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ『基礎看護技術Ⅰ』 ヌーベルヒロカワ『ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント』 医学書院 系統看護学講座『呼吸器』成人看護学2 医学書院 系統看護学講座『循環器』成人看護学3 メディックメディア『病気がみえる2 循環器』						
参考書							
履修上の留意点	・提出物は8:50に提出です。1時限目の授業がない場合は、授業がスタートする時間の10分前に提出です。提出遅れの場合、提出時間までに事前連絡をしてください。事前連絡がなければ課題点はありません。						

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群:専門分野【基礎看護学】

5年度	授業科目	臨床判断の基礎	担当教員	笹尾 みゆき	単位(時間数)	1(30)	
第2学年					担当時間数	30	
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験16年、産婦人科病棟と外来での臨床経験9年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		臨床で実践した経験に基づいて、具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。					
学習目的・目標	目的： 科学的根拠に基づき臨床判断を行う方法を知る。 目標： 1. 臨床判断の基礎的能力を学ぶ意義がわかる。 2. 既習学習した知識を看護の場面で活用する方法を習得する。 3. シミュレーションの中でコンセプトを使用し、臨床判断モデルを活用できる。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	1. なぜ、臨床判断が必要なのかを考える。 ・タナーの臨床判断モデルについて。 ・デギンスのコンセプトについて。			講義 GW	教室	
2・3	/	2. 呼吸困難の原因やメカニズム、治療の理解 肺炎、肺がん 小テスト、関連図作成、「ガス交換」のコンセプトについて			講義 GW	教室	肺の構造と呼吸のメカニズム
4・5	/	3. 片麻痺の原因やメカニズム、疾患の理解 脳梗塞、脳出血 小テスト、関連図作成、「頭蓋内制御」のコンセプトについて			講義 GW	教室	脳の構造について
6・7	/	4. 胸痛の原因やメカニズム、疾患の理解 狭心症、心不全 小テスト、関連図作成、「水と電解質」、「ガス交換」のコンセプトについて			講義 GW	教室	心臓の構造について
8・9	/	5. 排尿障害の原因やメカニズム、疾患の理解 腎不全 小テスト、関連図作成、「排泄」のコンセプトについて			講義 GW	教室	腎臓の構造について
10・11	/	6. 腹痛の原因やメカニズム、疾患の理解 肝がん 小テスト、関連図作成			講義 GW	教室	肝がんの関連図作成
12	/	7. 臨床判断演習 シミュレーション演習 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の患者			演習	実習室	
13	/	8. 臨床判断演習 シミュレーション演習			演習	実習室	
14	/	8. 臨床判断演習 シミュレーション演習			演習	実習室	
15	/	8. 臨床判断演習 シミュレーション演習			演習	実習室	
評価方法	小テストと課題で総合評価します。小テストは30点、課題点は70点です。						
教科書	1回目は①、2,3回目は①～③、4・5回目は①②④、6・7回目は①②⑤、8・9回目は①②⑥、10・11回目は①②⑦、12回目以降は①②を使用します。 ①医学書院 系統看護学講座『臨床看護総論』基礎看護学④ ②医学書院 系統看護学講座『解剖生理学』人体の構造と機能① ③医学書院 系統看護学講座『呼吸器』成人看護学② ④医学書院 系統看護学講座『脳・神経』成人看護学⑦ ⑤医学書院 系統看護学講座『循環器』成人看護学③ ⑥医学書院 系統看護学講座『腎・泌尿器』成人看護学⑧ ⑦医学書院 系統看護学講座『消化器』成人看護学⑤						
参考書	メディックメディア 病気がみえる『呼吸器』『脳・神経』『循環器』『運動器・整形外科』						
履修上の留意点	グループワークで思考や演習をしていきます。 課題の提出は、指定日・時間を厳守してください。						

※実務経験は令和4年4月1日現在

(3) 専門分野【地域・在宅看護論】

【ねらいと構成】

地域・在宅看護論では、地域の特徴を把握し、地域で暮らしながら生活している人々とその家族を理解する。そして対象が望む生活の質を維持・向上させるための看護の基礎を学ぶ。そのために、低学年から地域に出向き生活している人々の願いや価値観を知るフィールドワーク、訪問看護師の同行、住み慣れた地域で望む生活が送れるように支えている地域包括支援センターのフィールドワークを組み入れた。そして、臨地実習をととして、地域で療養している人々を支える看護の実際から看護者の役割を考えることをねらいとする。

専門分野	基礎看護学 11単位			
	地域・在宅看護論 6単位	西尾市の暮らし	1単位 30時間	西尾市の歴史・文化、 地域の暮らしと地域で生活する人々の価値観・信条 在宅看護の目的・対象・機能・場所 訪問看護見学 地域包括ケアシステム 地域包括支援センター・保健センターの活動 在宅での日常生活援助 在宅で医療処置を必要とする人の看護 在宅看護における看護過程の展開
		暮らしを支える看護Ⅰ	1単位 15時間	
		暮らしを支える看護Ⅱ	1単位 15時間	
		暮らしを支える看護方法Ⅰ	1単位 30時間	
		暮らしを支える看護方法Ⅱ	1単位 30時間	
		暮らしを支える看護方法Ⅲ	1単位 15時間	
	成人看護学 4(6)単位			
	老年看護学 3(4)単位			
	小児看護学 3(4)単位			
	母性看護学 3(4)単位			
	精神看護学 4単位			
	看護の統合と実践 4単位			
	複数の教育内容を併せて教授する科目 5単位			
	臨地実習 23単位	看護の基礎実習Ⅰ	1単位 45時間	【地域・在宅看護論実習】 病院から在宅療養へ移行する人々、在宅療養をしている人々への看護の実際を見学・体験する。
		看護の基礎実習Ⅱ	2単位 90時間	
		看護の基礎実習Ⅲ	2単位 90時間	
		暮らしを支える看護実習	2単位 90時間	
		健康危機状況の看護実習	2単位 90時間	
		人生の最終段階の看護実習	2単位 90時間	
		専門職連携実習	2単位 90時間	
		高齢者の生活を支える看護実習	2単位 90時間	
		こどもの成長発達と健康を支える看護実習	2単位 90時間	
		生命の育みを支える看護実習	2単位 90時間	
		心の健康と生活を支える看護実習	2単位 90時間	
		看護の統合実習	2単位 90時間	
66単位				

科目群:専門分野【地域・在宅看護論】

4年度	授業科目	西尾市の暮らし	担当教員	小笠原 順美	単位(時間数)	1(30)
第1学年					担当時間数	30
学習目的・目標	目的：西尾市の暮らしの特徴を知り、西尾市で暮らす人々を支える看護を考える。 目標： 1. 西尾市の暮らしを知る。 2. 西尾市で暮らす人々とコミュニケーションをとり、暮らしぶり・価値観・生活信条・信仰など大切にしていることを感じとる。 3. 西尾市における福祉のシステムについて知り、地域における看護の役割を考える。 4. 西尾市の暮らしの特徴から、看護者として対象と関わるときに大切にしたいことについて自己の考えを述べる。 5. 健康と暮らしを支える看護について考える動機づけとなる。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	担当
1	/	1. 西尾市の特徴と暮らし	講義・GW	教室	序章～P23を読み課題提出①	小笠原
2	/	2. 西尾市の歴史・文化を知ろう ・西尾市教育委員会・岩瀬文庫非常勤講師の語り	講義	教室		松井
3	/	3. 西尾市の文化を知ろう(葵製茶工場の見学)	フィールドワーク	葵製茶	見学後インパクトシート提出②	小笠原
4	/	4. 暮らしと看護 ・人々の暮らし ・暮らしと健康	講義・GW	教室		小笠原
5	/	5. 西尾市の暮らし・文化に触れる ・地域で暮らす人に聞いてみたいこと ・康全寺への移動計画立案	グループワーク	教室		小笠原
6	/	6. 市民の語り	フィールドワーク	康全寺本堂	インパクトシート(2枚)提出③④	碓井
7	/	7. 西尾市の暮らし・文化に触れる ・住職の法話	フィールドワーク	養寿寺	インパクトシート提出⑤	畔柳
8	/	8. 障害者支援施設ピカリコと西尾市総合福祉センターの役割	講義・GW	教室	施設の特徴・役割を調べる	小笠原
9 10	/	9. 身体に障害を持つ方の暮らし ・障害者支援施設ピカリコ施設見学	フィールドワーク	ピカリコ教室	見学後、インパクトシート提出⑥	磯貝 小笠原
11 12	/	10. 西尾市の暮らしを支える福祉施設 ・西尾市総合福祉センター施設見学	フィールドワーク	総合福祉センター教室	見学後、インパクトシート提出⑦	日高 小笠原
13	/	個人ワーク: 西尾市に住む人々の暮らしの特徴から対象と関わるときに大切にしたいこと グループワーク:個人の学びをグループで共有	個人ワーク・GW	教室	個人レポートを提出	小笠原

14	/	グループワーク:健康と暮らしを支える看護 「人々の健康に関する思い・願いから、暮らしを支援する看護師の役割」	GW	教室	グループ 発表資料 提出	小笠原
15	/	発表会:グループの学びをクラスで共有	GW	教室		小笠原
評価方法		課題とグループ発表で評価します。 フィールドワークは事前学習・インパクトシート(各回10点 計70点) 個人レポート20点 グループ発表(発表内容・発表態度)10点				
教科書		医学書院 系統看護学講座 専門分野 『地域・在宅看護論の基盤』				
参考書		講談社 『ナースがみる病気』 西尾イズムフォトブック 健康にしお21				
履修上の 留意点		提出物は、期提出に期限をしてください。期限を過ぎた場合、評価の対象となりません。 個人レポート(個人の学び)は、13回授業前と15回授業後(最終レポート)の2回提出していただきます。				

4年度		授業科目	暮らしを支える看護Ⅰ	担当教員	村松 奈緒美	単位(時間数)	1(15)
第1学年						担当時間数	15+研修1
学習目的・目標	目的: 地域での暮らしと必要な看護について考える。 目標: 1. 健康について課題を有しながら生活する人々の暮らしについて考える。 2. 健康について課題を有しながら暮らす人々を支える支援について考える。 3. 暮らしに必要な看護を考える。						
	月日	学習内容	方法	場所	課題		
1	／	1. 暮らしとは	講義	教室			
2	／	2. 地域・在宅看護の対象者	講義 GW	教室	訪問看護ステーションで学びたい事をまとめる		
3	／	3. 看護の対象者が、どの様な場でどのように生活しているか知ろう ・訪問看護師と一緒に在宅訪問してみよう	見学	訪問看護ステーション	ステーションでの学びを個人でまとめる		
4	／						
5	／	4. 暮らしを支える看護についてまとめてみよう	GW	教室	個々の学びから、各ステーション毎に学びをまる		
6	／						
7	／	5. 暮らしに必要な看護について考えてみよう	発表	教室	講義、見学、発表の内容をレポートにまとめる		
8 (1h研修)	／						
評価方法		訪問看護ステーションの個人の学び30点、発表30点、最終レポート40点					
教科書		医学書院 『地域・在宅看護の基盤』					
参考書							
履修上の留意点		3.4回目は、8月の夏休み期間で指定された日に訪問看護ステーションに個人で行き、訪問看護師に同行させて頂きながら行います。					

科目群: 専門分野【地域・在宅看護論】

5年度	授業科目	暮らしを支える看護Ⅱ	担当教員	今井 清美 他	単位(時間数)	1(15)
第2学年					担当時間数	15
【友原たき子】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験28年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		回復期リハビリテーション病棟を有する病院勤務(管理者)の経験に基づいて、地域包括ケアシステムや介護保険について制度や必要性を学ぶ。				
【森下和美】 授業科目に関連した実務経験の内容		保健師 29年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		行政の保健師としての経験を活かした講義により、地域包括支援センターの活動の実践について学ぶ。				
【杉田久美子】 授業科目に関連した実務経験の内容		保健師 36年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		保健センターの保健師としての経験を活かした講義により、保健センターで行われている、成人、母子に対する活動の実践について学ぶ。				
【今井清美】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験18年、認知症看護認定看護師経験12年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		看護師としての経験を活かした講義により、地域包括ケアシステムにおける看護の役割について学ぶ。				
学習目的・目標	目的: 地域での暮らしと必要な看護について考える。 目標: 1. 地域包括ケアシステムを理解することができる。 2. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割を考えることができる。					
回数		学習内容	方法	場所	担当	課題
1	／	地域包括ケアシステムとは	講義	教室	友原	
2	／	地域包括支援センターの活動の実践	講義	教室	森下	
3	／	保健センターの活動の実践 成人	講義	教室	杉田	
4	／	保健センターの活動の実践 母子	講義	教室	杉田	
5	／	地域包括支援センター連絡会議参加	フィールドワーク	市役所	今井	
6～7	／	地域包括支援センターの活動への参加	フィールドワーク	地域包括支援センター	今井	レポート課題提示
8	／	地域包括ケアシステムにおける看護の役割を考える (45分)	講義	教室	今井	レポート課題提示
評価方法	レポート課題評価 6・7回の地域包括支援センターの活動へ参加しての学びのレポート: 20点 講義、活動への参加からの最終レポート: 80点					
教科書	①南江堂 『在宅看護論』 ②メディックメディア 『公衆衛生がみえる』 ③『国民衛生の動向』					
参考書						
履修上の留意点	6・7回目は、夏休みの期間で、指定された日に地域包括支援センターに個人で行き、地域包括支援センターの活動に参加させていただきます。					

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群:専門分野【地域・在宅看護論】

5年度		授業科目	暮らしを支える看護方法Ⅰ	担当教員	村松 奈緒美	単位(時間数)	1(30)
第2学年						担当時間数	30
学習目的・目標	目的: 地域・在宅看護の対象、制度、看護技術を学ぶ。						
	目標: 1. 地域・在宅看護の法的基盤を理解する。 2. 地域で健康について課題を有しながら暮らす人々の気持ちを考える。 3. 地域・在宅看護の対象について理解する。 4. 対象者の希望する暮らしを支えるさまざまな地域・在宅看護技術について学ぶ。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	1. 地域・在宅看護の対象			講義	教室	
2	/	2. 地域で暮らす療養者や、家族の生活・思いについて考える (ALS療養者と妻の話)			講義	教室	ALSとは(事前) レポート(事後)
3	/	3. 暮らしの環境を整える看護 4. 広がる看護の対象と提供方法			講義	実習室	
4	/	5. 地域における家族への看護 6.地域におけるライフステージに応じた看護			講義	教室	
5	/	7. 介護保険制度			講義	教室	
6	/	ケアプランを考えてみよう			講義 GW	教室	
7	/	8. 医療保険制度 9. 訪問看護制度			講義	教室	
8	/	10. 介護者の生活について考える (事例より)			講義	教室	
9	/	介護者の生活や思いについて考える (介護者の方の話)			講義	教室	事例から質問内容 を考える
10	/	11. 暮らしを支える看護技術			講義	教室	レポート
11	/	清潔に関する地域・在宅看護技術			GW	教室	
12	/	清潔に関する地域・在宅看護技術			校内実習	実習室	
13 14	/	発表			校内実習	実習室	レポート
15	/	試験、授業のまとめ				教室	
評価方法		試験は45分で実施します。 配点は筆記試験80点、課題20点で評価します。					
教科書		①医学書院 『地域・在宅看護の基盤』地域・在宅看護論1 ②医学書院 『地域・在宅看護の実践』地域・在宅看護論2 ③メディックメディア 『病気がみえるvol.7脳・神経』					
参考書							
履修上の留意点		2、9回目の講義は外部講師と共にを行います。					

科目群：専門分野【地域・在宅看護論】

5年度	授業科目	暮らしを支える看護方法Ⅱ	担当教員	村松 奈緒美 及川 高志 杉浦 裕美 中嶋 順子	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
【及川 高志】						
授業科目に関連した実務経験の内容		作業療法士臨床経験13年(訪問看護ステーション勤務経験9年)				
実務経験を活かした実践的な授業内容		訪問看護ステーション勤務の経験に基づいて、在宅で生活する訪問看護を必要とする小児の多職種連携や制度確立の必要性について、具体的な事例を講義に取り入れている。				
【杉浦 裕美】						
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験17年、皮膚・排泄ケア認定看護師7年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		皮膚・排泄ケア認定看護師の経験に基づいて、在宅で生活し、排泄障害・褥瘡のある療養者の看護援助を学ぶ。				
【中嶋 順子】						
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験17年(訪問看護ステーション勤務経験3年) エンドオブライフケア協会認定ファシリテーター4年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		訪問看護ステーション勤務やエンドオブライフケア協会認定ファシリテーターの経験に基づいて、エンドオブライフケアについて、具体的な事例を講義に取り入れている。				
学習目的・目標	目的： 地域・在宅看護実践の場と連携、看護師の役割について学ぶ。 目標： 1. 福祉用具について理解できる。 2. 地域・在宅看護実践の場について理解する。 3. 多職種連携について理解する。 4. 暮らしを支える看護実践、看護師の役割について理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	1. 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	講義	教室	村松	
2	/	2. 「なごや福祉用具プラザ」施設見学	講義 体験学習	なごや福祉用具プラザ	村松	レポート
3	/	3. 地域・在宅看護実践の場	講義	教室	村松	
4	/	4. 障がいとともに豊かに生きる (障がいを持った方の話)	講義	教室	村松	レポート
5	/	5. 地域・在宅看護における他職種連携	講義	教室	村松	
6	/	6. ケアマネジメントと社会資源の活用	講義	教室	村松	
7	/	7. 在宅看護を必要とする小児 ・訪問看護ステーション作業療法士、訪問看護師講義	講義	教室	及川	レポート
8	/	・障がい児の母講義	講義	教室	村松	レポート
9	/	8. 食生活・嚥下、排泄に関する地域・在宅看護技術	講義	教室	村松	
10	/	9. 創傷管理に関する地域・在宅看護技術 ・皮膚・排泄認定看護師講義	講義	教室	杉浦	レポート
11	/	10. 呼吸・循環に関する地域・在宅看護	講義	教室	村松	
12	/	11. 在宅医療の生活と障害福祉サービス ・当事者、訪問看護師、障害者デイサービスセンター看護師講義	講義	教室	村松	レポート
13	/	12. 終末期の看護(エンドオブライフケアとは)	講義	教室	中嶋	レポート
14	/	試験、授業のまとめ		教室	村松	
15	/			教室	村松	
評価方法	試験は45分で実施します。 配点は筆記試験70点、課題30点で評価します。					
教科書	①医学書院『地域・在宅看護の基盤』 地域・在宅看護論1 ②医学書院『地域・在宅看護の実践』 地域・在宅看護論2					
参考書						
履修上の留意点	8回目の講義は及川講師が行います。 11回目の講義は杉浦講師が行います。 14回目の講義は中嶋講師が行います。 5、9、13回目の講義は外部講師と共にを行います。					

※実務経験は令和4年度4月1日現在

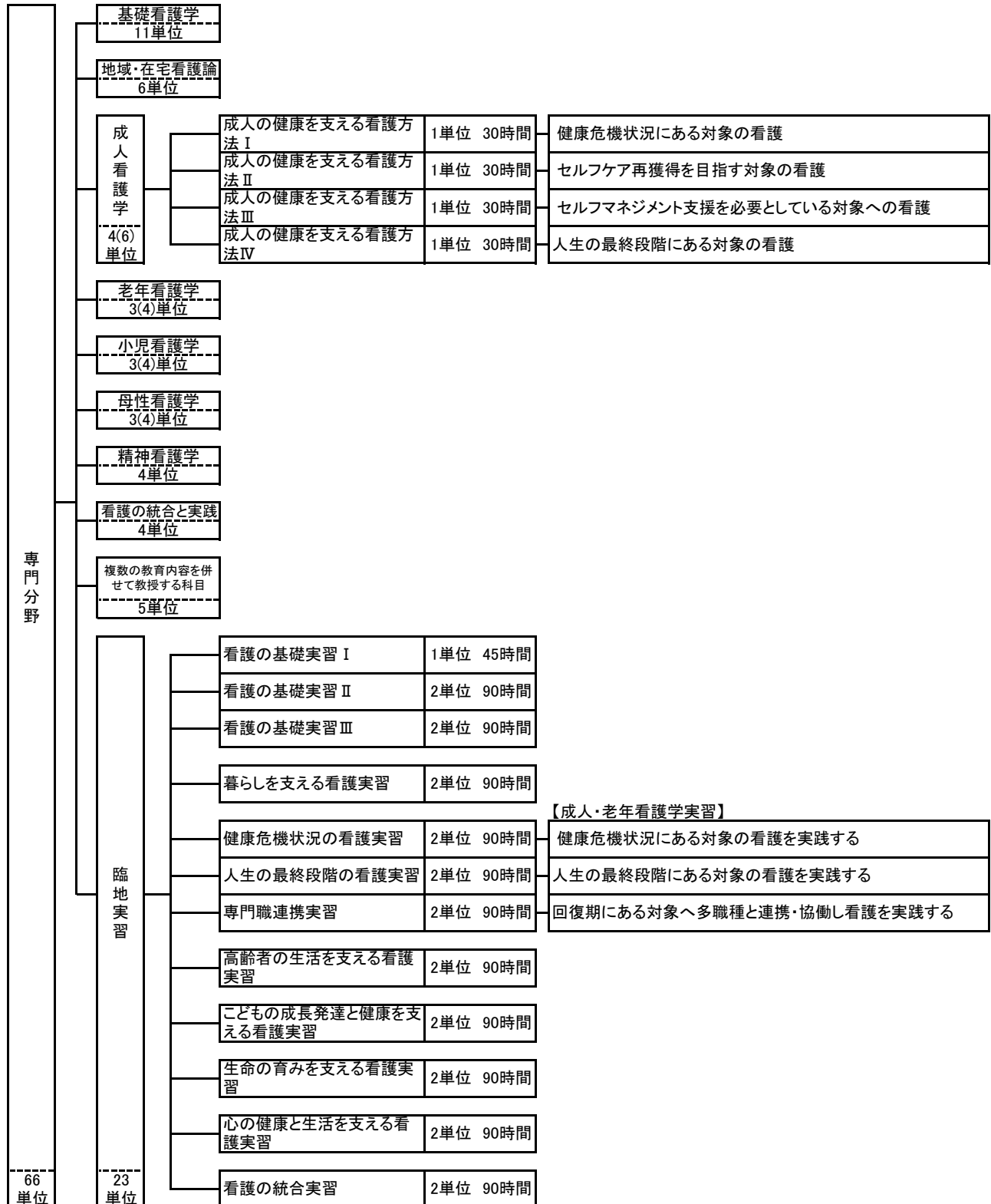
科目群: 専門分野【地域・在宅看護論】

5年度	授業科目	暮らしを支える看護方法Ⅲ	担当教員	村松 奈緒美	単位(時間数)	1(15)
第2学年					担当時間数	15+研修1
学習目的・目標	目的： 地域・在宅看護における看護の展開方法を学ぶ。 目標： 1. 地域・在宅看護における看護過程の特徴を理解する。 2. 地域・在宅における看護過程の展開を理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	Aさん(脳梗塞で左半身不全麻痺)の事例提示	講義	教室	授業進度にあわせ、課題を提出する	
		1. 地域包括ケア病棟における看護過程の展開を理解する				
2	/	2. 訪問看護での初回訪問前の情報を整理する	講義	教室		
3	/	3. 訪問看護でのアセスメントの仕方を理解する	講義	教室		
4	/	4. 初回訪問で得た情報を整理し、アセスメントする	講義	教室		
5	/	身体面と介護力についてアセスメントする	講義	教室		
6	/	5. 訪問看護における看護計画を理解する	講義 GW	教室	グループワークの結果を提出する	
7	/	6. 実践可能な看護計画を立案する	GW	教室		
8 (1h研修)	/	発表	演習	在宅看護実習室Ⅱ	今までの課題を整理し提出する	
評価方法	課題とGW資料で評価します。					
教科書	①医学書院『地域・在宅看護の基盤』 地域・在宅看護論1 ②医学書院『地域・在宅看護の実践』 地域・在宅看護論2 ③メディックメディア 『病気がみえるvol.7脳・神経』					
参考書	「脳梗塞」の事例で行ないます。各自で参考資料となるものを持参して授業に臨んでください。					
履修上の留意点	各看護学で学んだことをベースに在宅での看護を学習していきます。					

(3) 専門分野【成人看護学】

【ねらいと構成】

成人看護学は、青年期から壮年期、向老期にある人を対象とする。成人の各健康段階における対象の特徴を理解するとともに、健康問題に応じた必要な看護を学習する。成人期にある対象の経過・健康レベルに合わせた看護実践を通して、成人の健康支援のアプローチを学習する。



科目群：専門分野【成人看護学】

5年度	授業科目	成人の健康を支える看護方法Ⅰ	担当教員	近藤 ゆかり 角尾 真弓 長谷部 純子 小宮山 晴美 相沢 努	単位(時間数)	1(30)		
第2学年					担当時間数	30		
【近藤ゆかり】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験6年						
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(外科病棟)での臨床経験に基づいた看護の講義により、健康危機状況にある対象の特徴と看護援助を学ぶ。						
【角尾真弓】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験23年						
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(外科病棟)での臨床経験に基づいた周術期にある患者の看護の講義により、周術期にある対象の看護援助を学ぶ。						
【長谷部純子】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験18年、皮膚・排泄ケア認定看護師2年						
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(外科病棟)での臨床経験に基づいた人工肛門造設術を受けた患者の看護の講義により、周術期にある対象の看護援助を学ぶ。						
【小宮山晴美】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験24年						
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(循環器病棟)での臨床経験に基づいた講義により、健康危機状況ある対象の看護援助を学ぶ。						
【相沢努】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験19年、救急看護認定看護師経験9年						
実務経験を活かした実践的な授業内容		臨床の看護師経験と救急認定看護師の勤務経験を活かした講義により、救急状態にある対象の看護の特徴を学ぶ。						
学習目的・目標	目的：健康危機状況にある対象の看護援助を学ぶ。 目標： 1. 健康危機状況にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2. 健康危機状況にある対象の苦痛の緩和、心理的・精神的安定を図るための援助を理解する。 3. 健康危機状況にある対象の生活行動の変化が分かり、必要な看護を理解する。 4. 集中治療を必要とする対象の特徴を理解する。 5. 集中治療を必要とする対象の看護を理解する。 6. 救急状態にある対象の看護の特徴を理解する。							
回数	月日	学習内容			方法	場所	担当	課題
1	/	1. 成人各期の特徴と健康問題			講義	教室	近藤	
2	/	2. 健康危機状況にある対象に生じるセルフケア不足			講義	教室	近藤	
3	/	3. 胃癌で手術を受けた患者の看護 ・胃切除術後の食事指導			講義	教室	角尾	
4	/	4. 乳癌で手術を受けた患者の看護			講義	教室	角尾	
5	/	5. 直腸癌で人工肛門造設術を受けた患者の看護 ・人工肛門造設術後の排便の自己管理			講義	教室	長谷部	
6	/				講義	教室	長谷部	
7	/	6. 集中治療(生命維持を優先とした治療)を必要とする対象の看護			講義	教室	小宮山	
8	/	7. 弁膜症で心不全の患者の看護(心不全の事例) ・疾患の理解			講義	教室	小宮山	
9	/	8. 弁膜症で心不全の患者の看護 ・検査と治療の意味			講義	教室	小宮山	

10	/	9. 弁膜症で心不全の患者の看護 ・アセスメントと看護	講義	教室	小宮山	
11	/	10. 不整脈の患者の看護 ・心電図とは ・不整脈の治療と看護 ・心電図検査時の看護の実践	校内 実習	実習室	近藤	
12	/	11. 救急状態にある対象の看護	講義	教室	相沢	
13・14	/	12. 人工呼吸器を装着した患者の看護 ・気管内吸引法の実践 ・体位ドレナージ	校内 実習	実習室	近藤	
15	/	試験、授業のまとめ		教室	近藤	
評価方法		試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は100点です。 (配点は1・2・11・13・14回目の範囲が20分で40点、3・4回目の範囲が5分で15点、5・6回目の範囲が5分で15点、7～10回目の範囲が15分で30点)				
教科書		使用する教科書は、1回目は①、2回目は③、3回目は②④⑤、4回目は②④⑥、5・6回目は②④⑤、7～10回目は③⑦、11回目は③⑦⑧、13・14回目は⑦⑧を使用します。 ①メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 『成人看護学概論』 ②メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 『周術期看護』成人看護学④ ③メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 『健康危機状況/セルフケアの再獲得』成人看護学② ④秀和システム 『看護の現場ですぐに役立つ術前・術後ケアの基本』 ⑤医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 『消化器』成人看護学 5 ⑥医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 『女性生殖器』成人看護学 9 ⑦医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 『循環器』成人看護学 ⑧インターメディカ 『写真でわかる臨床看護技術②』				
参考書						
履修上の 留意点						

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群: 専門分野【成人看護学】

5年度	授業科目	成人の健康を支える看護方法Ⅱ	担当教員	石川 暁美 山口 真己 糟谷由美子 畑中 英子	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
【石川暁美】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験17年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		整形外科病棟での経験に基づき、具体的場面を用いた講義を行い、セルフケア再獲得についての看護を学ぶ。				
【山口真己】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験25年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(整形外科病棟)での経験に基づいた講義により、セルフケア再獲得にある対象の特徴とセルフケア再獲得を支援する看護援助を学ぶ。				
【糟谷由美子】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験26年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(内科病棟)での経験に基づいた講義により、セルフケア再獲得にある対象の特徴とセルフケア再獲得を支援する看護援助を学ぶ。				
【畑中英子】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験32年、摂食・嚥下障害看護認定看護師13年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		摂食・嚥下障害看護認定看護師としての経験に基づいて、麻痺・意識障害のある患者の看護援助の具体的な方法を講義・演習に取り入れている。				
学習目的・目標	目的： セルフケア再獲得を目指す対象の看護を学ぶ。 目標： 1. セルフケア低下状態にある成人を理解する。 2. セルフケア再獲得を支援する看護援助を理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	1. 成人にとってのセルフケア再獲得 2. 運動器疾患を持つ患者の看護 ・看護の役割 ・援助のためのおもな知識と技術	講義	教室	石川暁	
2	/	3. 骨折とは、転位、骨折治癒 4. 保存療法を受ける患者の看護	講義	教室	山口	
3	/	5. 大腿骨頸部骨折の患者の看護 ・手術を受ける患者の看護	講義	教室	山口	
4	/	6. 脊髄損傷患者の看護 ・急性期～慢性期	講義	教室	山口	
5	/	7. 関節リウマチ患者の看護	講義	教室	山口	
6	/	8. 生活基本行動レベルのセルフケアの低下と再獲得	講義	教室	糟谷	
7	/	9. 脳血管障害の患者の看護 ・意識障害のある患者の看護	講義	教室	糟谷	
8	/	10. 脳血管障害の患者の看護 ・頭蓋内圧亢進、呼吸障害のある患者の看護	講義	教室	糟谷	
9	/	11. 脳血管障害の患者の看護 ・運動麻痺、感覚障害のある患者の看護	講義	教室	糟谷	
10	/	12. 脳血管障害の患者の看護 ・高次脳機能障害のある患者の看護	講義	教室	糟谷	
11	/	13.くも膜下出血の患者の看護① ・手術を受ける患者の看護	講義	教室	糟谷	

12	/	13.くも膜下出血の患者の看護② ・手術を受ける患者の看護	講義	教室	糟谷	
13 14	/	14. 脳血管障害の患者の看護 ・麻痺・意識障害のある患者の嚥下体操、口腔ケア	校内実習	実習室	畑中	
15	/	試験、授業のまとめ		教室	糟谷	
評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施します。配点は2～5回の範囲が15分で40点、6～12回の範囲が20分で45点、13・14回の範囲が10分で15点です。					
教科書	教科書は、1回目①、2～5回目①③、6～14回目①②を使用します。 ①メディカ出版 ナーシンググラフィカ 『健康危機状況/セルフケアの再獲得』 成人看護学② ②医学書院 系統看護学講座 『脳・神経』 成人看護学7 ③医学書院 系統看護学講座 『運動器』 成人看護学10					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群: 専門分野【成人看護学】

5年度	授業科目	成人の健康を支える看護方法Ⅲ	担当教員	今井 清美 市川 郁代	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
【今井清美】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験18年 認知症看護認定看護師経験12年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(内科病棟)での経験に基づいた講義により、セルフマネジメント支援を必要としている対象の特徴と支援を必要としている対象の援助方法を学ぶ。				
【市川郁代】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験29年 糖尿病療養指導士経験11年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(内科病棟)での経験に基づいた講義により、セルフマネジメント支援を必要としている対象の特徴と支援を必要としている対象の援助方法を学ぶ。				
学習目的・目標	目的： セルフマネジメント支援を必要としている対象の看護を学ぶ。 目標： 1. セルフマネジメントの過程を理解する。 2. セルフマネジメント支援を必要としている対象の理解をする。 3. セルフマネジメント支援を必要としている対象の援助方法を理解する。 4. セルフマネジメント支援を必要としている対象の評価のしかたを理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	1. セルフマネジメントとは 2. セルフマネジメントのための対象理解	講義	教室	今井	
2	/	3. セルフマネジメントの過程 ・対象理解・援助方法・評価の仕方 ・指導方法(食事指導の実際に向けて)	講義	教室	今井	
3	/	4. 糖尿病に関する知識 ・定義と診断基準・検査	講義	教室	市川	
4	/	・糖尿病患者の治療(食事療法・運動療法・薬物療法)	講義	教室	市川	
5	/	5. 糖尿病患者の看護 ・ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント ・看護目標・看護活動	講義	教室	市川	
6	/	6. 糖尿病をもつクライアントのセルフマネジメント事例	講義	教室	市川	
7	/	7. パンフレット・ポスターの作り方	講義	教室	市川	
8	/	8. 糖尿病患者の看護 ・パンフレット指導の実際(食事指導)	講義 校内実習	実習室	今井	
9	/	9. 血糖自己測定実施への援助(学内実習)	講義 校内実習	実習室	今井	
10	/	10. 腎臓と腎不全に関する知識 ・症状と病態・検査・診断・治療	講義	教室	市川	
11	/	・CKD患者の食事管理	講義	教室	市川	
12	/	11. 腎不全のクライアントのセルフマネジメント事例	講義	教室	市川	
13	/	12. 慢性腎臓病(CKD)患者の看護計画 ・血液透析患者の看護計画	講義	教室	市川	
14	/	・透析とセルフケア 透析の原理と条件・透析と日常生活について	講義	教室	市川	
15	/	試験、授業のまとめ		教室	市川	

評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施します。配点は3～7回の範囲が35分で80点、1～2回・8～9回の範囲が10分で20点です。
教科書	教科書は、1・2回目は①、3～8回目は①②、9回目は①②④、10～14回目は①③を使用します。 ①メディカ出版 ナーシング・グラフィカ『セルフマネジメント』成人看護学③ ②医学書院 系統看護学講座『内分泌・代謝』成人看護学6 ③医学書院 系統看護学講座『腎・泌尿器』成人看護学8 ④インターメディカ『写真でわかる臨床看護技術①』
参考書	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ『成人看護学概論』成人看護学①
履修上の留意点	課題の提出は、指定日・時間を厳守する。

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群: 専門分野【成人看護学】

5年度	授業科目	成人の健康を支える看護方法Ⅳ	担当教員	内田 ひかり 山中 明子	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
【内田ひかり】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験7年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(外科病棟)での経験に基づいた講義により、人生の最終段階にある対象の特徴と支援を必要としている対象の援助方法を学ぶ。				
【山中明子】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験21年、がん化学療法看護認定看護師経験3年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(内科病棟)での経験に基づいた講義により、人生の最終段階にある対象の特徴と支援を必要としている対象の援助方法を学ぶ。				
学習目的・目標	目的： 人生の最終段階にある対象の看護を学ぶ。 目標： 1. 人生の最終段階にある対象の全人的苦痛を理解する。 2. 人生の最終段階にある対象の苦痛緩和の看護を考え実践する。 3. 放射線療法と化学療法時の看護を理解する。 4. 血液・造血器疾患の患者の看護を理解する。 5. 薬剤・輸血の管理について実践できる。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	1-1. 肺癌患者の看護 ・対象の理解 シミュレーションモデルと電子カルテからの情報収集	講義	教室	内田	
2	/	1-2. 肺癌患者の看護 ・病態の理解	講義	教室	内田	
3	/	1-3. 肺癌患者の看護 ・ゴードンの機能的健康パターンによるアセスメント	講義	教室	内田	
4	/	1-4. 肺癌患者の看護 ・ゴードンの機能的健康パターンによるアセスメント	講義	教室	内田	
5	/	1-5. 肺癌患者の看護 ・全人的苦痛とその関係、関連図	講義	教室	内田	
6	/	1-6. 肺癌患者の看護 ・放射線治療と看護、化学療法と看護	講義	教室	内田	
7	/	1-7. 肺癌患者の看護 ・苦痛緩和の看護	講義	教室	内田	
8	/	1-8. 肺癌患者の看護 ・苦痛緩和の看護実践	校内実習	実習室	内田	
9	/	1-9. 肺癌患者の看護 ・生活援助の実際	校内実習	実習室	内田	
10	/	2. 地域で暮らしながら治療を継続する人を支える看護【認定看護師】	講義	教室	山中	
11	/	3. 血液・造血器疾患の患者の看護 ・鉄欠乏性貧血の患者の看護 ・再生不良生貧血の患者の看護	講義	教室	内田	
12	/	4. 血液・造血器疾患の患者の看護 ・急性骨髄性白血病の患者の看護	講義	教室	内田	
13・14	/	5. 薬剤・輸血の管理の実践 ・麻薬、血液製剤、輸血	校内実習	実習室	内田	
15	/	試験45分、授業のまとめ			内田	
評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は100点です。					

教科書	教科書は、1～9回目①③④、10～12回目②、13・14回目②⑤を使用します。 ①医学書院 系統看護学講座『呼吸器』成人看護学2 ②医学書院 系統看護学講座『血液・造血器』成人看護学4 ③ヌーベルヒロカワ『緩和・ターミナルケア看護論』 ④メディックメディア『病気がみえるvol. 4 呼吸器』 ⑤医学書院『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』
参考書	
履修上の留意点	課題の提出は、指定日・時間を厳守する。

※実務経験は令和4年4月1日現在

(3) 専門分野【老年看護学】

【ねらいと構成】

老年看護学では、加齢による心身の変化と、高齢者を取り巻く環境について体験を通して理解を深める。また、高齢者に対する健康の維持増進・健康管理・日常生活の援助方法について学び、高齢者のその人らしい生活を支える為の、知識・技術・態度を習得することをねらいとする。

専門分野	基礎看護学 11単位			
	地域・在宅看護論 6単位			
	成人看護学 4(6)単位			
	看護学 3(4)単位	高齢者の生活と看護の基礎	1単位 15時間	高齢者を取り巻く社会環境 生活とケアシステム 加齢変化と生活への影響
		高齢者の生活と看護方法Ⅰ	1単位 30時間	高齢者の生活理解 日常生活の援助方法
		高齢者の生活と看護方法Ⅱ	1単位 30時間	高齢者の健康障害の特徴 治療・療養の場における看護
	小児看護学 3(4)単位			
	母性看護学 3(4)単位			
	精神看護学 4単位			
	看護の統合と実践 4単位			
	複数の教育内容を併せて教授する科目 5単位			
	臨地実習	看護の基礎実習Ⅰ	1単位 45時間	【成人・老年看護学実習】
		看護の基礎実習Ⅱ	2単位 90時間	
		看護の基礎実習Ⅲ	2単位 90時間	
		暮らしを支える看護実習	2単位 90時間	健康危機状況にある対象の看護を実践する
		健康危機状況の看護実習	2単位 90時間	
		人生の最終段階の看護実習	2単位 90時間	
		専門職連携実習	2単位 90時間	回復期にある対象へ多職種と連携・協働し看護を実践する
		高齢者の生活を支える看護実習	2単位 90時間	
		こどもの成長発達と健康を支える看護実習	2単位 90時間	【老年看護学実習】
		生命の育みを支える看護実習	2単位 90時間	
		心の健康と生活を支える看護実習	2単位 90時間	
		看護の統合実習	2単位 90時間	施設で生活する高齢者の看護を実践する
	66単位	23単位		

科目群: 専門分野【老年看護学】

4年度	授業科目	高齢者の生活と看護の基礎	担当教員	加藤 美佑紀	単位(時間数)	1(15)
第1学年					担当時間数	15
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験8年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務での看護の経験に基づいた講義により、老年期にある対象の看護を学ぶ				
学習目的・目標	目的： 高齢者の特徴を理解し、支える看護の考え方を学ぶ。 目標： 1. 高齢者の身体的、精神的、社会的特徴を理解できる。 2. 加齢による心身の変化が高齢者の生活に与える影響を理解できる。 3. 高齢者看護の基本的な考え方を理解できる。					
回数	月日		方法	場所	課題	
1	/	1ー1. 高齢者の理解 1)ライフサイクルからみた高齢者 2)高齢者の統計学的特徴 3)老年期の特徴と高齢者の理解 4)高齢者にとっての健康、QOL	講義	教室		
2・3	/	1-2. 高齢者の理解 高齢者疑似体験	校内実習 (フィールドワーク)	在宅看護 実習室Ⅱ	レポート課題 提示	
4	/	1ー3. 高齢者の理解 1)加齢に伴う変化と生活 2)高齢者の理解とコミュニケーション	講義	教室		
5	/	2.. 高齢者をとりまく社会 1)高齢者がいる家族 2)高齢者を支える制度、社会資源 ・医療保険制度、介護保険制度、年金制度、成年後見制度	講義	教室		
6	/	3. 高齢者看護の基本 生活アセスメント 1)ケアの特徴、倫理的課題 2)身体アセスメントの特徴 包括的な機能のアセスメント 3)リスクマネジメントの考え方	講義	教室		
7	/	4. 高齢者の健康づくり、介護予防 1)運動機能、口腔機能の向上 2)閉じこもり、認知症、うつ予防	講義	教室		
8	/	試験 45分		教室		
評価方法	試験は45分で実施します。配点は筆記試験90点、課題10点で評価します。					
教科書	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 『高齢者の健康と障害』 老年看護学①					
参考書						
履修上の留意点	2・3回目は高齢者の疑似体験を行います。高齢者になりきって行動し、学習しましょう。					

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群: 専門分野【老年看護学】

5年度	授業科目	高齢者の生活と看護方法Ⅰ	担当教員	加藤 美佑紀	単位(時間数)	1(30)	
第2学年					担当時間数	30	
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験8年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務での看護の経験に基づいた講義により、老年期にある対象の看護を学ぶ。					
学習目的・目標	目的： 高齢者を生活者としてとらえ、高齢者の日常生活の援助方法について学ぶ。 目標： 1. 生活の特徴をアセスメントし、セルフケア支援の方法を理解する。 2. 生活機能の観点からアセスメントし、看護の方法を理解する。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	1-1. 食事 ・高齢者の食生活、必要な栄養とエネルギー			講義	教室	
2	/	1-2. 食生活 ・セルフケア支援のポイント、口腔の清潔、義歯の取り扱い			講義	教室	
3	/	2-1. 排泄 ・加齢による排泄の変化、排泄動作に必要な主な生活機能			講義	教室	
4・5	/	2-2. 排泄 ・セルフケア支援のポイント、陰部洗浄とおむつ交換 (グループで手順書作成、実施)			GW 校内実習	実習室	
6	/	2-3. 排泄 ・セルフケア支援のポイント、陰部洗浄とおむつ交換 (グループ発表、リフレクション)			GW 校内実習	実習室	レポート課題 提示
7	/	3-1. 活動と休息 ・高齢者の活動と休息の特徴、廃用症候群			講義	教室	
8	/	3-2. 活動と休息 ・廃用症候群予防のためのアセスメント、セロ測定 ・活動と休息への支援 ROM			講義	教室	
9	/	4-1. 清潔 ・セルフケアの支援方法、スキンケア			講義	教室	
10	/	4-2. 清潔 ・感染のリスクアセスメント、感染症ケア			講義	教室	
11	/	5. コミュニケーション 困難にする要因、看護とコミュニケーション技術 6. 住まい 住環境のアセスメント 7. 社会参加 地域における高齢者の社会参加			講義	教室	
12	/	8. 施設における暮らし 老人保健施設 老人福祉施設 グループホーム			講義	教室	
13・14	/	9. 特別養護老人ホーム せんねん村 施設見学 老人福祉施設の役割			フィールド ワーク		レポート課題 提示
15	/	試験、授業のまとめ					
評価方法	試験は45分で実施します。配点は筆記試験80点、課題20点で評価します。						
教科書	①メディカ出版 ナーシング・グラフィカ『高齢者の健康と障害』 老年看護学① ②メディカ出版 ナーシング・グラフィカ『高齢者看護の実践』 老年看護学② ③医学書院『生活機能からみた老年看護過程』						
参考書							
履修上の留意点							

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群: 専門分野【老年看護学】

5年度	授業科目	高齢者の生活と看護方法Ⅱ	担当教員	今井 清美	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験18年、認知症看護認定看護師経験12年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務、認知症看護認定看護師としての看護経験に基づいた講義により、老年期にある対象の看護を学ぶ。				
学習目的・目標	目的： 疾患や障害をもつ高齢者の看護を学ぶ。 目標： 1. 高齢者に多い健康障害が生活に及ぼす影響を理解する。 2. 高齢者に多い健康障害の特徴とその看護の視点を理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. 高齢者看護実習の基本、目指すもの 2. 入院を必要とする高齢者の看護	講義	教室		
2	/	3. 誤嚥性肺炎の症状と看護	講義 小テスト	教室		
3	/	4. 薬物療法を受ける高齢者の看護 5. 高血圧から心不全を併発した高齢者	講義	教室		
4	/	6. 心不全の症状と生活への影響とケア方法	講義 小テスト	教室		
5	/	7. パーキンソン病の高齢者の看護	講義	教室		
6	/	8. リハビリテーションを受ける高齢者の看護 9. 感覚器に障害をもつ高齢者の看護	講義 小テスト	教室		
7	/	10-1. 認知症のある高齢者の看護 病態の理解、中核症状に対するケア	講義	教室		
8	/	10-2. BPSDに対するケア、薬物療法 食事・帰宅願望・排泄ケア、レクリエーション	講義 小テスト	教室		
9	/	11. 看護過程の展開 入院中の看護 ～脳梗塞の事例～ <3-2>の書き方と理解	講義	教室		
10	/	<3-3> パターン1～3の書き方と理解	講義	教室		
11	/	<3-3> パターン4～11の書き方と理解 まとめ	講義	教室	看護過程 課題提示	
12	/	12. 看護過程の展開 介護老人保健施設での看護 ～脳梗塞の事例～	講義	教室		
13	/	<1>基本情報、<2>疾患関連情報の書き方と理解	講義	教室		
14	/	<3>生活行動情報、<4>看護援助の書き方と理解	講義	教室	看護過程 課題提示	
15	/	試験、授業のまとめ		教室		
評価方法	試験は45分で実施します。配点は筆記試験60点、課題20点、小テスト20点です。					
教科書	①メディカ出版 ナーシング・グラフィカ『高齢者の健康と障害』 老年看護学① ②メディカ出版 ナーシング・グラフィカ『高齢者看護の実践』 老年看護学② ③医学書院『生活機能からみた老年看護過程』					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和4年4月1日現在

(3) 専門分野【小児看護学】

【ねらいと構成】

この科目では、こどもの特徴や健康なこどもの成長・発達、こどもを取り巻く社会・家庭環境の現状と動向を学び、こどもの健康増進のために必要な看護師の役割を理解する。また、こどもは家族との相互作用の中で人間関係を築き、生活習慣を確立し、社会性を身につけていく存在である。こどもだけでなく、こどもを中心とする家族も看護の対象とし、さらに、家族の特徴および現代社会の環境をより広い視野からとらえ小児看護を学ぶ。

また、こどもの権利と健康を守り、こどもの安全で安楽なケアを提供するために、科学的根拠に基づいたこどもの看護技術を学ぶ。

専門分野	基礎看護学 11単位					
	地域・在宅看護論 6単位					
	成人看護学 4(6)単位					
	老年看護学 3(4)単位					
	看護小児学 3(4)単位		こどもの成長発達と健康	1単位 15時間	こどもを取り巻く社会/子どもの権利/学校保健	
			こどもの成長発達を支える看護方法Ⅰ	1単位 30時間	こどもの成長発達/健康障害を持つ各期の子どもの特徴	
			こどもの成長発達を支える看護方法Ⅱ	1単位 30時間	こどもの示す症状の特徴/こどもの看護技術	
						健康障害を持つ家族とこどもの思考過程プロセス
	母性看護学 3(4)単位					
	精神看護学 4単位					
	看護の統合と実践 4単位					
	複数の教育内容を併せて教授する科目 5単位					
	臨地実習		看護の基礎実習Ⅰ	1単位 45時間	【小児看護学実習】 こどもの成長発達を捉え、こどもと家族への看護を実践する。	
			看護の基礎実習Ⅱ	2単位 90時間		
			看護の基礎実習Ⅲ	2単位 90時間		
			暮らしを支える看護実習	2単位 90時間		
			健康危機状況の看護実習	2単位 90時間		
			人生の最終段階の看護実習	2単位 90時間		
			専門職連携実習	2単位 90時間		
			高齢者の生活を支える看護実習	2単位 90時間		
			こどもの成長発達と健康を支える看護実習	2単位 90時間		
			生命の育みを支える看護実習	2単位 90時間		
			心の健康と生活を支える看護実習	2単位 90時間		
			看護の統合実習	2単位 90時間		
	66 単位	23 単位				

科目群:専門分野【小児看護学】

4年度		授業科目	こどもの成長発達と健康	担当教員	鈴木 陽子	単位(時間数)	1(15)	
第1学年						担当時間数	15	
授業科目に関連した実務経験の内容			看護師臨床経験14年					
実務経験を活かした実践的な授業内容			病院勤務(小児科病棟)での小児期にある子どもの看護の経験に基づいて、子どもを取り巻く環境や小児看護の考え方を講義・演習に取り入れている。					
学習目的・目標		目的： こどもを取り巻く社会と、こどもの成長発達の特徴について学ぶ。 目標： 1. こどもを取り巻く家族や社会環境との関連を考えることができる。 2. こどもの健康と権利を守るための諸制度とその活用について理解する。 3. こどもが健康な生活を送るための養育・看護について理解する。						
回数	月日	学習内容				方法	場所	課題
1	／	1. こどもの看護の対象と看護の特徴 2. こどもにとっての家族とは？				講義	教室	こどもに関するニュース
2	／	3. こどもを取り巻く社会 グループワーク				GW	教室	
3	／	4. 現代社会の特徴から、こどもへの影響を考える グループワーク・発表				講義	教室	
4	／	5. 児童福祉法・こどもの権利				講義	教室	
5	／	6. 子どもと家族の諸統計				講義	教室	
6	／	7. 子どもの倫理 8. 子どもの事故と事故防止				講義	教室	
7	／	9. 健康障害がこどもとその家族に及ぼす影響				講義	教室	
8	／	試験				講義	教室	
評価方法		試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は試験90点、課題点10点です。						
教科書		①医学書院 系統看護学講座 『小児看護学概論 小児臨床看護総論』 小児看護学① ②医学書院 系統看護学講座 『小児臨床看護各論』 小児看護学② ③メディカ出版 ナーシンググラフィカ 『小児の発達と看護』 ④メディックメディア 『公衆衛生がみえる』						
参考書								
履修上の留意点		小児と成人の違いについて意識しながら学習しましょう。 すでに学習したことを振り返りながら学習しましょう。 事前に課題を出します。						

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群:専門分野【小児看護学】

5年度	授業科目	こどもの成長発達を支える看護方法Ⅰ	担当教員	鈴木 陽子	単位(時間数)	1(30)	
第2学年					担当時間数	30	
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験14年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(小児科病棟)での小児期にある子どもの看護の経験に基づいて、こどもを取り巻く環境や小児看護の考え方を講義・演習に取り入れている。					
学習目的・目標	目的： こどもとその家族の成長発達や、状況に合わせた看護について学ぶ。 目標： 1. こどもの成長発達の特徴について理解する。 2. こどもがよく示す症状と看護について理解する。 3. 健康障がいを持つ子どもと家族への看護について学ぶ。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	キーワード
1	/	1. こどもの成長と発達、評価			講義	教室	家族機能
2	/	2. 新生児期・乳児期の成長発達の特徴			講義	教室	
3	/	3. 幼児期の成長発達の特徴			講義	教室	
4	/	4. 学童期・思春期の成長発達の特徴			講義	教室	
5	/	5. 小児看護の目標 1)外来の特徴と看護の役割 2)入院中のこどもと家族の看護			講義	教室	
6	/	6. 症状を示すこどもの看護①			GW	教室	
7	/	症状を示すこどもの看護②			GW	教室	
8	/	7. 子どもの栄養			講義	教室	
9	/	8. こどもの薬物療法と看護			講義	教室	
10	/	9. 急性期にあるこどもの特徴			講義	教室	
11	/	10. 慢性期にあるこどもの特徴			講義	教室	
12	/	11. 子どものセルフケア			講義	教室	
13	/	12. 低出生体重児と家族への看護			講義	教室	
14	/	13. 発達障害のあるこどもとその家族の看護			GW	教室	
15	/	試験、授業のまとめ				教室	
評価方法		試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は試験80点、課題点20点です。					
教科書		①医学書院 系統看護学講座『小児看護学概論 小児臨床看護総論』小児看護学① ②医学書院 系統看護学講座『小児臨床看護各論』小児看護学② ③メディカ出版 ナーシンググラフィカ『小児の発達と看護』 ④講談社 鴨下・柳 澤監修『こどもの病気の地図帳』					
参考書							
履修上の留意点		小児と成人の違いについて意識しながら学習しましょう。 すでに学習したことを振り返りながら学習しましょう。 事前に課題を出します。					

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群:専門分野【小児看護学】

5年度	授業科目	こどもの成長発達を支える看護方法Ⅱ	担当教員	鈴木 陽子	単位(時間数)	1(30)	
第2学年					担当時間数	30	
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験14年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(小児科病棟)での小児期にある子どもの看護の経験に基づいて、子どもを取り巻く環境や小児看護の考え方を講義・演習に取り入れている。					
学習目的・目標	目的：健康障害をもつこどもとその家族を理解し、対象に応じた看護を学ぶ。 目標：1. 事例を通して健康障害をもつこどもとその家族に必要な看護援助が考えられる。 2. 健康障害をもつこどもとその家族の看護過程の展開方法を理解する。 3. こどもの成長発達の特徴を考えた看護技術の方法について理解する。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	キーワード
1	／	1. こどもの看護過程の展開の特徴 ・事例の提示：2才 気管支喘息 急性期 ・4歳児の発達段階・形態的・機能的特徴 ・こどもを理解するために必要な情報			講義	教室	事前課題 情報用紙
2	／	2. 病態情報の整理 ・情報用紙から病態に必要な情報の意味を考える 3. 関連図に必要なキーワードの抽出			講義 GW	教室	事前課題 関連図
3	／	4. 全体像をとらえる ・グループで関連図を作成する			講義 GW	教室	
4	／	5. 関連図の共有 ・こどもとその家族の発達段階から分析する			GW	教室	事前課題 <3-3>
5	／	6. こどものアセスメントの特徴 ・機能的健康パターンの情報をアセスメントする①			講義	教室	事前課題 <3-3>
6	／	・機能的健康パターンの情報をアセスメントする②			講義	実習室	事前課題 関連図
7	／	7. アセスメント内容から全体関連図を完成させる			講義	教室	事前課題 <3-6>
8	／	8. 看護上の問題を明らかにする 9. 起こりうる問題の優先度を考える			講義	教室	
9	／	10. 検査・処置を受けるこどもの看護 ・説明と同意 骨髄穿刺の介助			講義	教室	
10	／	11. 子どもへのプレパレーションの実際①			GW	教室	プレパレーション
11	／	12. 子どもへのプレパレーションの実際②			GW	教室	
12	／	13. こどものアセスメント ・バイタルサイン			講義	教室	
13	／	・コミュニケーション、身体計測			校内実習	教室	
14	／	14. こどもの看護技術 ・酸素療法中の清拭			校内実習	教室	
15	／	・環境整備、安全への配慮			校内実習	教室	
評価方法		評価は課題と小テストで評価します。配点は課題80点、小テスト20点です。					
教科書		①医学書院 系統看護学講座『小児看護学概論 小児臨床看護総論』小児看護学① ②医学書院 系統看護学講座『小児臨床看護各論』小児看護学② ③メディカ出版 ナーシンググラフィカ『小児の発達と看護』 ④講談社 鴨下・柳 澤監修『こどもの病気の地図帳』					
参考書							
履修上の留意点		小児と成人の違いについて意識しながら学習しましょう。 すでに学習したことを振り返りながら学習しましょう。 事前に課題を出します。					

※実務経験は令和4年4月1日現在

(3) 専門分野【母性看護学】

【ねらいと構成】

母性看護学は、いのちが創造され、いのちを産み育む人々を支える看護である。

リプロダクティブヘルスと看護では、いのちを育む土台となるリプロダクティブヘルス(性と生殖の健康)について学びます。母性看護は、妊娠・分娩・出産を通して「その人らしさ」、「母性や父性」、その人の経験する「新しい役割」「他者への愛着」「親と子の相互作用」に関心を寄せます。さらに人格形成に深く関わる「セクシュアリティ」「ジェンダー」を学習することで、人の本質や奥底にあるものを洞察する力を養います。

生命の育みを支える看護方法Ⅰ～Ⅱでは、親役割獲得を支える過程の看護として、妊娠・出産・育児期の特徴を学び看護方法を考える。具体的には、母体と胎児のつながり、妊婦・産婦・褥婦と新生児の特徴と生理的变化を理解して、妊産褥婦のセルフケア能力を高める援助方法、母乳保育への支援や育児指導に関する援助方法を学習する。

専門分野	基礎看護学 11単位				
	地域・在宅看護論 6単位				
	成人看護学 4(6)単位				
	老年看護学 3(4)単位				
	小児看護学 3(4)単位				
	看護学 3(4)単位		リプロダクティブヘルスと看護	1単位 15時間	母性の特性／女性のライフサイクル各期の特徴／リプロダクティブヘルスの支援 妊娠期の母体及び胎児の形態機能の特徴／分娩各期の看護／出生直後から新生児の形態機能の特徴と看護 新生児の看護技術／産褥期の特徴と看護／母子を支える看護
			生命の育みを支える看護方法Ⅰ	1単位 30時間	
			生命の育みを支える看護方法Ⅱ	1単位 30時間	
	精神看護学 4単位				
	看護の統合と実践 4単位				
	複数の教育内容を併せて教授する科目 5単位				
	臨地実習	看護の基礎実習Ⅰ		1単位 45時間	【母性看護学実習】 母親役割獲得過程にある対象への支援を考える
		看護の基礎実習Ⅱ		2単位 90時間	
		看護の基礎実習Ⅲ		2単位 90時間	
		暮らしを支える看護実習		2単位 90時間	
		健康危機状況の看護実習		2単位 90時間	
		人生の最終段階の看護実習		2単位 90時間	
		専門職連携実習		2単位 90時間	
		高齢者の生活を支える看護実習		2単位 90時間	
		こどもの成長発達と健康を支える看護実習		2単位 90時間	
		生命の育みを支える看護実習		2単位 90時間	
		心の健康と生活を支える看護実習		2単位 90時間	
		看護の統合実習		2単位 90時間	
		66単位	23単位		

科目群:専門分野【母性看護学】

4年度	授業科目	リプロダクティブヘルスと看護	担当教員	柴山 幸子 高須 初恵	単位(時間数)	1(15)
第1学年					担当時間数	15
【柴山幸子】 授業科目に関連した実務経験の内容		助産師臨床経験6年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		助産師として、妊・産・褥婦のケアを実践した経験に基づいて、具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。				
【高須初恵】 授業科目に関連した実務経験の内容		助産師臨床経験24年と不妊症認定看護師7年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		助産師として、妊・産・褥婦のケアを実践した経験に基づいて、具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。				
学習目的・目標	目的： リプロダクティブヘルスライツと母性看護の役割と意義を考える。 目標： 1. 母性看護における看護者の役割について考える。 2. 女性のライフサイクルの健康問題と看護を理解をする。 3. リプロダクティブヘルス（性と生殖の健康）の概念と支援について理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	1. トピックス・ニュースから、「母性」もしくは「性と生殖」に関する健康問題を考える。	講義 GW	教室他	柴山	「母性」または「性と生殖」に関するニュース・トピックスを調べ開講前にレポート提出する。
2	/	2. グループワークの発表から、母性看護の対象と役割、意義は何かを考える。	GW	教室	柴山	
3	/	3. 女性のライフサイクルにおける健康問題と看護 ・母性看護とは？・母性看護の対象は？ ・ライフサイクル各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)の特徴、健康課題	講義	教室	柴山	
4	/	4. リプロダクティブヘルス/ライツ ・リプロダクティブヘルス/ライツとは？ ・生殖の過程におけるWell-beingを実現させるために	講義 GW	教室	柴山	
5	/	5. 避妊法と性感染症について 避妊法の実際、ちょっと正しく理解し実行できる？	講義 GW	教室	柴山	
6	/	6. 不妊のカップルへの支援	講義	教室	高須	
7	/	7. 出生前診断における倫理観	講義	教室	高須	
8	/	試験		教室	柴山	
評価方法	各課題とグループワークの発表と筆記試験で総合評価します。 筆記試験は45分で実施し、配点は筆記試験60点、課題点40点です。					
教科書	南江堂 母性看護学Ⅰ 概論・ライフサイクル					
参考書	医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ『女性生殖器』成人看護学9 医学書院 系統看護学講座 専門基礎『解剖生理学』 メディック・メディア『病気がみえる 産科』『病気がみえる 婦人科・乳腺外科』 財団法人看護統計協会『国民衛生の動向 2021/2022』					
履修上の留意点	第1回目の授業はグループで一番関心の高いテーマについてグループワークを行う。 その結果を第2回目の授業で発表し、クラス全体で学びを共有する。 事前学習課題を学習してから講義に参加する。					

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群：専門分野【母性看護学】

5年度	授業科目	生命の育みを支える看護方法Ⅰ	担当教員	梶山 綾子	単位(時間数)	1(30)	
第2学年					担当時間数	30	
授業科目に関連した実務経験の内容		助産師臨床経験11年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		助産師として、妊・産・褥婦のケアを実践した経験に基づいて、具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。					
学習目的・目標	目的： 妊娠・分娩期における親役割獲得過程を支援する看護を学ぶ。 目標： 1. 妊娠の生理・胎児の発育と母体の生理的变化、妊婦と家族の心理を理解する。 2. 妊婦のセルフマネジメントを支援する妊娠期の看護を理解する。 3. 分娩の生理を理解する。 4. 産婦のニーズに応じた分娩各期の看護を理解する。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	1. 妊娠の成立とメカニズム			講義	教室	貧血の予防・体重管理・便秘予防の中から1つリーフレットを作成
2	/	2. 胎児の成長、母体の変化(生殖器・全身)			講義	教室	
3	/	3. 妊婦の心理、家族の心理、社会との関係			講義	教室	
4	/	4. 妊娠期のセルフマネジメント 1 (妊娠診断、妊婦健康診査の目的と意味・方法)			講義	教室	
5	/	5. 妊娠期のセルフマネジメント 2 (活動と休息・マイナートラブルの予防)			講義	教室	
6	/	6. 妊娠期のセルフマネジメント 3 (食生活)			講義	教室	
7	/	7. 出産と子育ての準備のための看護・母性に関する関係法規			講義	教室	
8	/	8. レオポルド触診法、子宮底長・腹囲の測定、胎児心音聴取、妊婦体験			講義 校内実習	実習室	
9	/	9. 分娩の3要素・分娩経過・産婦と家族の心理、分娩第1期の看護			講義	教室	
10	/	10. 産婦のニーズと看護(分娩第2期の看護)			講義	教室	
11	/	11. 産婦のニーズと看護(分娩第3・4期の看護)			講義	教室	
12	/	12. 出生直後新生児の形態機能の変化 (呼吸・循環・体温)			講義	教室	
13	/	13. 新生児の生理的適応現象と形態機能の変化 (消化と吸収、ビリルビン代謝、腎臓の働き、免疫、皮膚、反射、感覚機能)			講義	教室	
14	/	14. 新生児の母体外環境への適応の看護 (呼吸・循環・体温)			講義	教室	
15	/	試験、授業のまとめ (リーフレットの俯瞰・発表)			講義	教室	
評価方法	事前課題、リーフレット、課題、小テストと筆記試験で総合評価します。 試験は45分で実施し、配点は筆記試験60点、課題(リーフレット、課題、小テスト)40点です。						
教科書	メディカ出版『母性看護学①』 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版『母性看護学②』 母性看護の実際 メディカ出版『母性看護学③』 母性看護技術						
参考書	メディック・メディア『看護師・看護学生のためのなぜ? どうして? 母性看護学』 メディック・メディア『病気がみえる 産科』 医学書院『根拠と事故防止からみた母性看護技術』 医学書院『なるほど解決! 妊産褥婦のよくあるトラブル』						
履修上の留意点	講義前に事前学習をして参加する。 自分の母子健康手帳を持参する。 校内実習は、学校指定のジャージを着用する。						

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群:専門分野【母性看護学】

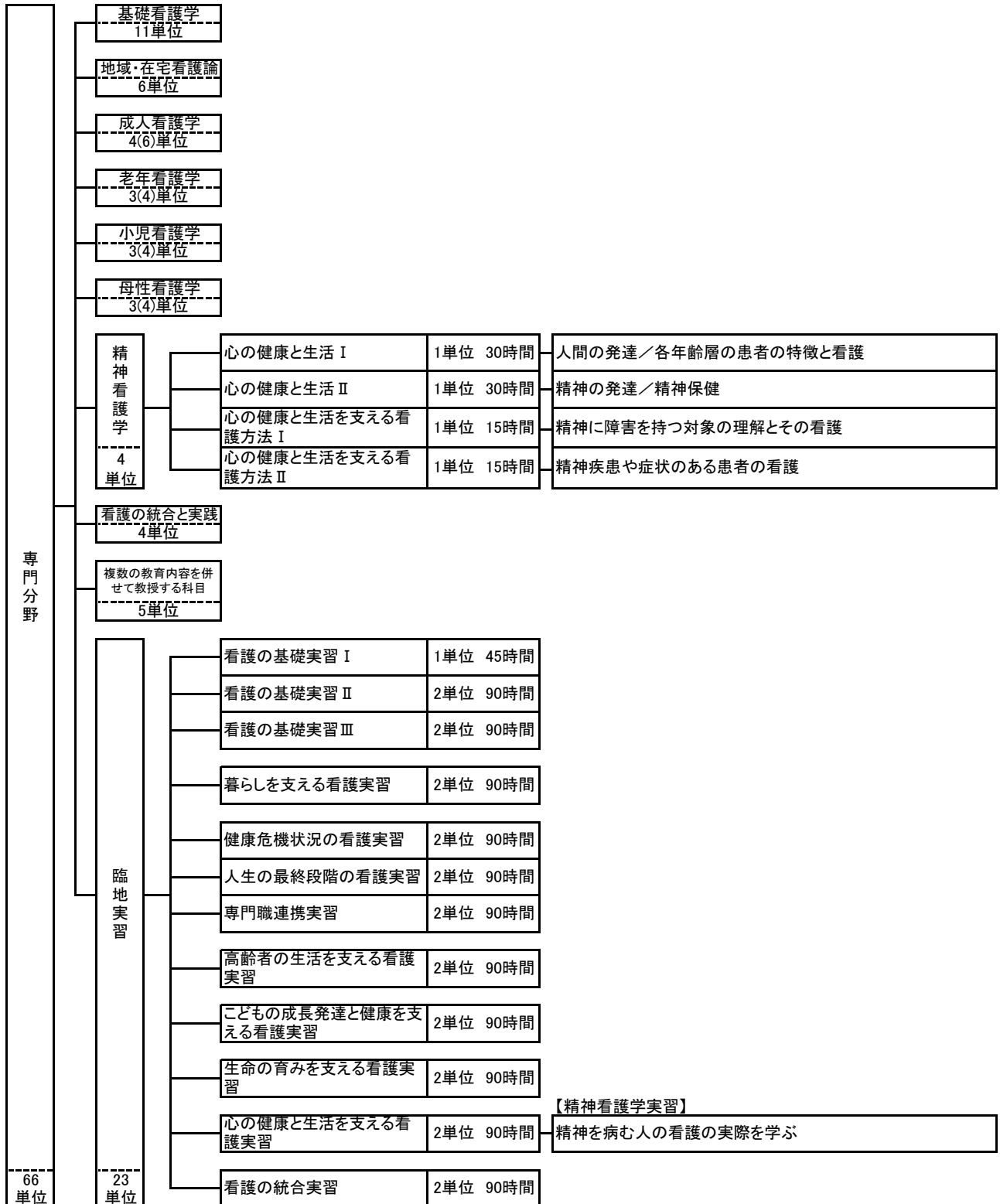
5年度	授業科目	生命の育みを支える看護方法Ⅱ	担当教員	笹尾 みゆき 新家 早苗	単位(時間数)	1(30)	
第2学年					担当時間数	30	
【笹尾みゆき】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験16年、産婦人科病棟と外来での臨床経験9年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		助産師として、妊・産・褥婦のケアを実践した経験に基づいて、具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。					
【新家早苗】 授業科目に関連した実務経験の内容		助産師臨床経験21年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		助産師として、妊・産・褥婦のケアを実践した経験に基づいて、具体的な援助方法を講義・演習に取り入れている。					
学習目的・目標	目的： 産褥期における親役割獲得過程を支援する看護を学ぶ。 目標： 1. 産褥期の生理的変化（退行性変化・進行性変化）を理解する。 2. 褥婦のセルフケアを支援する産褥期の看護を理解する。 3. 母子一体の看護を展開する方法を理解する。 4. 育児技術の修得をはかる。						
回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題	
1	/	1. 新生児の看護技術 (児の抱き方、衣類の着脱、おむつ交換、バイタルサイン測定)	校内実習	実習室	笹尾	看護過程の展開は 事前課題を 講義前に提出	
2・3	/	2. 沐浴演習	校内実習	実習室			
4	/	3. 産褥の生理(退行性変化・進行性変化)	講義	教室			
5	/	4. 褥婦と家族の心理、母親になることへの支援	講義	教室			
6	/	5. 褥婦のセルフケアを支える看護(日常生活・母乳育児)	講義	教室			
7	/	6. 母子を支える継続看護	講義	教室	新家		
8	/	7. 産褥1日目の母子の全体像を描く	講義 GW	教室	笹尾		
9	/	8. 産褥2日目の母子の全体像を描く	講義 GW	実習室			
10	/	9. 産褥3日目の母子の全体像を描く	講義 GW	教室			
11	/	10. 看護上の問題を明確化・ケースの特徴と看護の方向性を描く	講義 GW	教室			
12	/	11. 母子を支える看護(指導案作成)	講義 GW	実習室			
13・14	/	12. 沐浴技術チェック	校内実習	実習室			
15	/	試験、授業のまとめ		教室			
評価方法	事前課題、レポート、看護過程展開の課題と筆記試験で総合評価します。 筆記試験は45分で実施し、配点は筆記試験60点、課題(事前課題、レポート、看護過程展開)40点です。						
教科書	メディカ出版『母性看護学①』 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版『母性看護学②』 母性看護の実際 メディカ出版『母性看護学③』 母性看護技術						
参考書	メディック・メディア『看護師・看護学生のためのなぜ? どうして? 母性看護学』 メディック・メディア『病気がみえる 産科』 医学書院『根拠と事故防止からみた母性看護技術』 医学書院『なるほど解決! 妊産褥婦のよくあるトラブル』 メディカ出版『ミルキーママの自分のできるおっぱいケア』						
履修上の留意点	自分の母子健康手帳を持参する。 沐浴の技術チェックは、実習開始までに合格する。 看護過程の展開は事前課題を講義前に提出する。						

※実務経験は令和4年4月1日現在

(3) 専門分野【精神看護学】

【ねらいと構成】

精神看護学では、人間の心の発達について学ぶ。またノーマライゼーションに基づき、全てのライフサイクルにおける人々が抱える心身の不調や生活上の問題を把握し、社会に参加しながら自分らしく生活するための支援方法を学ぶ。
看護の実践では、対象とコミュニケーションをとりながら対人関係を築くなかで、自己理解につなげていく。



科目群: 専門分野【精神看護学】

4年度	授業科目	心の健康と生活Ⅰ	担当教員	川崖 真知	単位(時間数)	1(30)	
第1学年					担当時間数	30	
授業科目に関連した実務経験の内容		臨床心理士経験24年 公認心理師経験3年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		臨床心理士・公認心理師としての経験に基づいた講義により、人間の発達や各年齢層の精神発達、精神保健について学ぶ。					
学習目的・目標	目的： 発達心理学、人格心理学に関する知識を学び、看護に役立てる。 目標： 1. 各発達段階の特徴を理解し、患者理解に生かす。 2. 発達障害に関する基礎知識を獲得する。 3. DVやchild abuseへの医療従事者としてとるべき対応を学ぶ。 4. ストレス理論とコーピングについて学び、患者理解および自己管理に生かす。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	1. 精神看護学で学ぶこと			講義	教室	
2	/	2. 精神の健康と障害			講義	教室	
3	/	3. 人間の心の諸活動			講義	教室	
4	/	4. 心身の発達(発達心理学概説)			講義	教室	
5	/	5-1. 各発達段階の特徴(胎児期～幼児期)			講義	教室	
6	/	5-2. 各発達段階の特徴(幼児期～学童期)			講義	教室	
7	/	6. 発達障害			講義	教室	
8	/	7-1. 各発達段階の特徴(思春期・青年期)			講義	教室	
9	/	7-2. 各発達段階の特徴(成人期)			講義	教室	
10	/	7-3. 各発達段階の特徴(成人期後期:老年期)			講義	教室	
11	/	8-1. 家族と精神の健康			講義	教室	
12	/	8-2. 家族と精神の健康			講義	教室	
13	/	9. ストレスと心身の機能			講義	教室	
14	/	10. 精神分析理論に基づく発達理解 パーソナリティー理論			講義	教室	
15	/	試験、授業のまとめ				教室	
評価方法	筆記試験とレポートで総合評価します。筆記試験は45分で実施します。						
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ『精神看護の基礎』精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ『精神看護の展開』精神看護学② 医学書院 系統看護学講座 別巻『精神保健福祉』						
参考書							
履修上の留意点	レポート課題を必要に応じて出します。						

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群:専門分野【精神看護学】

5年度	授業科目	心の健康と生活Ⅱ	担当教員	寺下 浩司 中村 伸一	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
【寺下浩司】						
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験28年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		精神科病院での実務経験を活かし、患者エピソードや治療・看護の実際と学習内容を関連付けた講義を取り入れます。 看護師養成所での教員経験を基に、臨地実習や資格試験のポイントも視野に入れて講義します。				
【中村伸一】						
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験27年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		精神科病院勤務での精神障害のある患者の看護経験に基づいて、治療と看護援助の具体的な方法を講義に取り入れている。				
学習目的・目標	目的：心の健康に障がいを抱える人々を援助する上で必要な知識を学習する。 目標：1. 精神保健福祉の変遷と精神障がい者の現状を捉える。 2. ケアの原則を踏まえ、精神科看護における特殊性と看護師の役割を知る。 3. 対象の置かれた「生きにくさ」に着目し、それぞれの生活の場に応じた援助のあり方を理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	1. 精神の健康と精神障がい	講義	教室	寺下	
2	/	2. 精神保健福祉の変遷	講義	教室	寺下	
3	/	3. 精神保健福祉に関する法律と施策	講義	教室	寺下	
4	/	4. 回復への支援	講義	教室	寺下	
5	/	5. 精神科における倫理	講義	教室	寺下	
6	/	6. 患者-看護師関係	講義 GW	教室	寺下	
7	/	7-1. 精神科における治療と看護(1)	講義	教室	中村	
8	/	7-2. 精神科における治療と看護(2)	講義	教室	中村	
9	/	8-1. 施設見学・事前オリエンテーション	講義 GW	教室	中村	
10・11・12	/	8-2. 施設見学	見学	みどりの風 南知多病院	中村	レポート
13	/	8-3. 施設見学の振り返り	講義	教室	中村	
14	/	9. 地域生活の支援	講義	教室	中村	
15	/	試験	筆記	教室	寺下	
評価方法	施設見学のレポート・発表(20点)と筆記試験(45分で80点)の合計100点満点で評価します。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ『精神看護の基礎』精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ『精神看護の展開』精神看護学② 医学書院 系統看護学講座 別巻『精神保健福祉』					
参考書	メヂカルフレンド社『看護実践のための根拠がわかる精神看護技術』 医学書院『精神看護学ノート』 医歯薬出版『精神看護学-学生-患者のストーリーで綴る実習展開』					
履修上の留意点	施設見学は目的意識を持って参加しましょう。レポート・発表は20点分の評価となります。					

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群:専門分野【精神看護学】

5年度	授業科目	心の健康と生活を支える看護方法Ⅰ	担当教員	中村 伸一	単位(時間数)	1(15)	
第2学年					担当時間数	15	
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験27年					
実務経験を活かした実践的な授業内容		精神科病院勤務での精神障害のある患者の看護経験に基づいて、疾患の理解と看護援助の具体的な方法を講義に取り入れている。					
学習目的・目標	目的： 対象の状態や状況に応じた看護援助を学ぶ 目標： 1. 精神障害を持つ対象の疾患・治療の特徴を理解する。 2. 症状や経過に応じた援助方法を理解する。 3. 家族への看護の必要性を理解し、考えることが出来る。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	1-1. 精神疾患の特徴と看護 統合失調症①			講義	教室	
2	/	1-2. 精神疾患の特徴と看護 統合失調症②			講義 GW	教室	
3	/	2. 精神疾患の特徴と看護 気分障害			講義	教室	
4	/	3. 精神疾患の特徴と看護 神経症性障害、ストレス関連障害			講義 GW	教室	
5	/	4. 精神疾患の特徴と看護 生理的障害(摂食障害)、パーソナリティ障害			講義	教室	
6	/	5. 精神疾患の特徴と看護 精神作用物質使用による精神障害、てんかん、神経発達障害			講義	教室	
7	/	6. 精神疾患の特徴と看護 器質性精神障害			講義	教室	
8	/	試験				教室	
評価方法	試験は45分で実施します。配点は100点です。						
教科書	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 『精神看護の基礎』 精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 『精神看護の展開』 精神看護学②						
参考書	NOUVELLE HIROKAWA 第4版 精神看護学Ⅱ 『精神臨床看護学』 系統看護学講座 別巻 『精神保健福祉』 日本看護協会出版 『患者理解への看護の視点』						
履修上の留意点	レポート課題を必要に応じて出します。						

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群:専門分野【精神看護学】

5年度		授業科目	心の健康と生活を支える看護方法Ⅱ	担当教員	石川 暁美	単位(時間数)	1(15)	
第2学年						担当時間数	15	
学習目的・目標	目的： 精神疾患や症状ある患者の看護について学ぶ。 目標： 1. 自己理解、他者理解について理解できる。 2. 集めた情報を整理し対象の全体像を理解し、看護問題を抽出することができる。 3. 精神疾患をもつ患者への関わり方が理解できる。							
回数	月日	学習内容				方法	場所	課題
1	/	1. 精神看護におけるケアの人間関係 ・ケアの前提～感情を通して自分を知り、相手を知ること～ ・ケアの原則 ・ケアの方法				講義	教室	
2	/	2. プロセスレコードを使って看護場面を振り返る (関係をアセスメント) ・私と相手の対人関係、看護の視点からみた対人関係				講義	教室	課題提示
3	/	3-1. 統合失調症の事例を通して、関連図を描く①				講義	教室	課題提示
4	/	3-2. 統合失調症の事例を通して、関連図を描く②				講義 GW	教室	
5	/	4. 統合失調症の看護計画を立案する				講義 GW	教室	課題提示
6	/	5-1. 統合失調症患者の看護 幻覚・妄想症状のある患者の看護(ロールプレイ)				講義	教室	課題提示
7	/	5-2. 統合失調症患者の看護 長期入院患者への関わり(ロールプレイ)				講義	教室	課題提示
8	/	試験					教室	
評価方法		試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施します。配点は筆記試験50点、課題50点で評価します。						
教科書		医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 『精神看護の基礎』 精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 『精神看護の展開』 精神看護学②						
参考書		日本看護協会出版 『患者理解の看護の視点』 講談社 『ナースが視る病気』 医学書院 系統看護学講座 別巻 『精神保健福祉』						
履修上の留意点								

(3) 専門分野【看護の統合と実践】

【ねらいと構成】

看護の統合と実践では、入学時から在学中、卒後をとおり、生涯看護師として自己成長できるよう入学時からリフレクションの科目を設定しプロジェクト学習を導入する。自己を振り返り、自己の課題に主体的に取り組む力を身につける。チーム医療における役割を果たすために、看護管理概論の科目を設定し、看護のマネジメントを学ぶ。また看護の統合と実践の科目を設定し、今までに学んだ理論を使い、科学的根拠に基づいた看護判断ができ、保健・医療・福祉チームのメンバーとして多職種と協働し、自己のもてる力を最大限に活用する。臨床に近い形で実践すること、専門職業人としての自覚や責任を育む。また、災害看護と国際看護の科目では、災害時や国際看護の基礎を学ぶ。

専門分野	基礎看護学 11単位			
	地域・在宅看護論 6単位			
	成人看護学 4(6)単位			
	老年看護学 3(4)単位			
	小児看護学 3(4)単位			
	母性看護学 3(4)単位			
	精神看護学 4単位			
	看護 と 実 践 の 統 合 4 単位	リフレクション I	1単位 30時間	プロジェクト学習、リフレクションの方法と実際を学ぶ
		看護管理概論	1単位 30時間	看護管理・マネジメント、キャリア開発を学び、キャリア形成を考える
		災害看護と国際看護	1単位 30時間	災害時・救急時の看護、国際看護の基礎知識を学ぶ
		看護の統合と実践	1単位 30時間	基礎的な知識・技術を統合し、対象に応じた看護を学ぶ
	複数の教育内容を併せて教授する科目 5単位			
	臨床 実 習	看護の基礎実習 I	1単位 45時間	
		看護の基礎実習 II	2単位 90時間	
		看護の基礎実習 III	2単位 90時間	
		暮らしを支える看護実習	2単位 90時間	
		健康危機状況の看護実習	2単位 90時間	
		人生の最終段階の看護実習	2単位 90時間	
		専門職連携実習	2単位 90時間	
		高齢者の生活を支える看護実習	2単位 90時間	
		こどもの成長発達と健康を支える看護実習	2単位 90時間	
		生命の育みを支える看護実習	2単位 90時間	
		心の健康と生活を支える看護実習	2単位 90時間	
		看護の統合実習	2単位 90時間	臨床現場における看護を統合的に理解する
	66 単位	23 単位		

科目群: 専門分野【看護の統合と実践】

4年度		授業科目	リフレクションⅠ	担当教員	深谷 英子	単位(時間数)		1(30)
第1学年						担当時間数		30
学習目的・目標	目的:看護専門職として成長し続けていくための思考のスキルを身につける。							
	目標: 1. 成人としての学習方法がわかる。							
	2. プロジェクト学習の意義と方法がわかり、自ら取り組むことができる。							
	3. リフレクションの意義と方法がわかり、必要なスキルを身につけることができる。							
回数	月日	学習内容				方法	場所	課題・提出
1	/	1. 成人学習者としての学習【新入生オリエンテーション】 ・成人の学習 ・意志ある学びープロジェクト学習 ・リフレクション				講義	教室	ナイチンゲールの著作集を読み感想を書く
2	/	2-1. プロジェクト学習 ・ビジョン・ゴール ・ポートフォリオ ・アクションシート 3-1. リフレクション導入				講義	教室	
3	/	3-2. リフレクション【5つのスキルトレーニング】 ①自己への気づき				講義	教室	自己への気づきの感想
4	/	3-3. リフレクション【5つのスキルトレーニング】 ②描写 ③批判的分析				講義	教室	うまくいかなかった場面の記述
5	/	3-4. リフレクション【5つのスキルトレーニング】 ④評価 ⑤総合				講義	教室	
6	/	3-5. リフレクション【ギブスのリフレクティブサイクル】 ①記述・描写				講義	教室	校内実習で気になった場面の記述
7	/	3-6. リフレクション【ギブスのリフレクティブサイクル】 ②感情 ③評価 ④批判的分析 ⑤総合 ⑥行動計画				講義	教室	
8	/	2-2. ビジョン・ゴール振り返り会【7月】 ・ポートフォリオをもとに入学して3か月を振り返る。 ・今後の方向性を発表				講義	教室	振り返りシート
9	/	3-7. 看護場面のリフレクション【9月】 ・看護の基礎実習Ⅰに向けた準備				講義	教室	校内実習で気になった場面の記述
10	/	3-8. 看護場面のリフレクション【10月】 ・看護の基礎実習Ⅰで気になった場面のリフレクション				講義	教室	気になった場面の記述
11	/	3-9. 看護場面のリフレクション【10月】 ・看護の基礎実習Ⅰで気になった場面のリフレクション「発表会」				講義	教室	
12	/	2-3. ビジョン・ゴール振り返り会【12月】 ・ポートフォリオをもとに入学して8か月を振り返る。 ・今後の方向性を発表				講義	教室	気になった場面の記述
13	/	2-4. 成長確認とリフレクション【3月】 ・成長エントリーシート①② ・自分と向き合うシート				講義	教室	凝縮ポートフォリオ作成
14・15	/	2-5. 成長発表会【3月】 ・凝縮ポートフォリオを作成し、一人ずつ発表する				発表会	教室	下書きを発表前に提出
評価方法		提出物で評価します。						
教科書		医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ『基礎看護技術Ⅰ』						
参考書								
履修上の留意点		・提出物は8:50に提出です。1時限目の授業がない場合は、授業がスタートする時間の10分前に提出です。提出遅れの場合、提出時間までに事前連絡をしてください。事前連絡がなければ課題点はありません。						

科目群: 専門分野【看護の統合と実践】

5年度	授業科目	看護管理概論	担当教員	小川 友理子 清政 一二三 鳥居 ゆかり	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
【小川友理子】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験31年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(管理者)の経験に基づいた講義により、看護に関する法律と看護専門職者としての基本的行動について学ぶ。				
【清政一二三】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験35年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(管理者)の経験に基づいた講義により、職員の安全管理と看護職のキャリア開発について学ぶ。				
【鳥居ゆかり】 授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験31年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(管理者)の経験に基づいた講義により、臨床における医療安全の実践を学ぶ。				
学習目的・目標	目的: 看護管理の基礎を学び、患者ケア・看護サービス提供のマネジメントについて理解する。					
	目標: 1. 看護管理の基礎を学び、看護ケアを効果的に行う方法を理解する。 2. 保健師助産師看護師法を理解し、看護専門職の自覚をもつ。 3. 医療安全管理について理解し、安全な看護の基本的行動の基礎ができる。 4. 看護師として基本的倫理行動を形成する。 5. 看護専門職として自律するため、セルフ・キャリアマネジメントを考える。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	/	看護管理・看護サービスの基本的概念	講義	教室	小川	
2	/	看護サービス提供の方法論	講義	教室		
3	/	看護サービス提供の実際と課題	講義	教室		
4	/	卒後教育・人材育成	講義	教室		
5	/	看護専門職	講義	教室		
6	/	チーム医療・情報管理・看護経済	講義	教室		
7	/	保健師助産師看護師法	講義	教室		
8	/	看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	教室		
9	/	感染管理	講義	教室	清政	
10	/	職員の安全管理	講義 演習	教室	清政	
11	/	医療安全管理の基礎	講義	教室	鳥居	
12	/	医療安全:KYT	講義	教室	鳥居	
13	/	看護職のキャリア開発	講義 演習	教室	清政	
14	/	キャリアプランの作成	講義	教室	清政	
15	/	看護倫理	講義 演習	教室	鳥居	
評価方法	試験は45分で実施し、配点は100点です。 (配点は1～8回の範囲が25分で60点、9・10・13・14回の範囲が10分で20点、11・12・15回の範囲が10分で20点) 試験は、講義時間外の時間で実施します。					

教科書	医学書院 系統看護学講座 『看護管理』 11・12回目は医学書院 系統看護学講座 『医療安全』を使用します。
参考書	そのつど、資料提供します。
履修上の 留意点	

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群:統合分野【看護の統合と実践】

5年度	授業科目	災害看護と国際看護 (災害看護)	担当 教員	相沢 努	単位(時間数)	1(30)	
第2学年					担当時間数	22	
授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験19年、救急看護認定看護師経験9年					
実務経験を活かした 実践的な授業内容		臨床の看護師経験と救急看護認定看護師の勤務経験を活かした講義により、災害時・救急時の看護を講義・演習に取り入れている。					
学習目的・目標	目的： 施設内看護から視野を広げ、国際看護や災害時・救急時の看護を学ぶ。 目標： 1. 災害に関する基礎知識を学ぶ。 2. 災害時の看護の役割を理解する。 3. 心肺停止患者の心肺蘇生法を実践する。 4. 心肺停止患者にAEDを使用できる。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	課題
1	/	1. 救急時の看護 ・心肺停止状態への対応/一次救命処置			講義	教室	
2・3	/	2. 救急時の看護 ・心肺蘇生法の実践(BLSの実践 AEDの操作方法)			校内実習	実習室	
4	/	3. 災害看護の基礎知識、災害に関する制度			講義	教室	
5	/	4. 災害が人々に与える影響、災害時サイクルに応じた看護の役割			講義	教室	
6	/	5. 災害時の看護の役割 ・トリアージの基本と方法・トリアージ机上シュミレーション			講義	教室	
7・8	/	6. 災害時の看護の役割 ・トリアージ演習、応急処置			校内実習	未定	
9	/	7. 被災病院における発災直後の看護活動、応急処置、止血法			校内実習	教室	
10	/	8. 災害時のこころのケア 災害看護活動の課題			講義	教室	
11	/	試験・授業のまとめ				教室	
評価方法		試験と課題で評価します。 試験は45分で実施し、配点は70点です。					
教科書		医学書院 系統看護学講座 統合分野 『災害看護学・国際看護学』					
参考書							
履修上の 留意点							

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群:統合分野【看護の統合と実践】

5年度	授業科目	災害看護と国際看護 (国際看護)	担当 教員	西川 まり子 若園 尚美	単位(時間数)	1(30)		
第2学年					担当時間数	8		
【西川まり子】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験18年 国連ニューヨーク本部 UFFPA、UNICEF勤務経験						
実務経験を活かした 実践的な授業内容		臨床の看護師経験と国連の勤務経験を活かした講義により、国際看護の現状と看護師の役割を学ぶ。						
【若園尚美】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験37年						
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(管理者)の経験を活かした講義により、国際看護における看護師の役割を学ぶ。						
学習 目的 ・ 目標	目的: 施設内看護から視野を広げ、国際看護の現状、国際看護での看護師の役割を学ぶ。							
回数	月日	学習内容			方法	場所	担当	課題
1	/	世界の国際看護の現状			講義	教室	西川	
2		グローバルヘルスの指標 国際看護における看護師の役割			講義	教室		
3	/	日本での国際看護の現状			講義	教室	若園	
4		日本での外国人の現状			講義	教室		
評価方法		評価は課題レポート(30点)で評価します。						
教科書		①ユニセフ基礎リーフレット ②世界子供白書2019<要約版>						
参考書		医学書院 系統看護学講座 『災害看護学・国際看護学』						
履修上の 留意点		以下の事前学習をして授業に参加する。 ①ユニセフ基礎リーフレットの世界地図を覚えて授業に参加する。 ②世界子供白書2019<要約版>を読んで、関心を持って授業に参加する。 「災害看護」は70点分を45分の筆記試験で評価する。「国際看護」は30点分を課題で評価する。 ただし、評価の時期は各講師授業終了時とする。各講師毎に再試験、単位認定試験まで行う。 各講師毎の得点の合計を授業科目の評価とする。						

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群: 専門分野【看護の統合と実践】

6年度 第3学年	授業 科目	看護の統合と実践	担当 教員	中村 陸美	単位(時間数)	1(30)
					担当時間数	30
学習 目的 ・ 目標	目的： 既習の知識・技術・態度を統合し、看護が実践できる基礎的能力を養う。 目標： 1. ヒューマンケアの基本的能力を理解することができる。 2. 倫理面やリスク面を配慮した看護を理解し、その根拠を考えることができる。 3. 看護の優先度や医療安全の視点を考慮し、看護計画を立案し実践することができる。 4. 複数患者の事例を通して、多重課題における看護の優先度を考えることができる。 5. チームの学びを振り返り、実習に向けてチームの目標を表現することができる。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	課題	
1	/	1. イントロダクション ・実習概要 ・授業概要	講義	教室	事前課題	
2	/	2. チーム演習(統合の基礎知識) ・チーム医療 ・看護のマネジメント	講義 演習	教室		
3	/	3. チーム演習(統合の基礎知識) ・ヒューマンケア	講義 演習	教室		
4	/	4. チーム演習 ・学生看護チームの理念を考える ・夜間看護について ・事例(骨折患者・肺気腫患者)をイメージする	講義 演習	教室		
5	/	5. チーム演習 ・骨折事例患者の行動計画 リスクと対処法、優先すべきケア、24時間の行動計画立案	演習	教室		
6	/	6. チーム演習 ・肺気腫事例患者の行動計画 リスクと対処法、優先すべきケア、24時間の行動計画立案	演習	教室		
7	/	7. チーム演習 ・学生2人で2事例患者を受け持ち、1日の実習行動計画を立案する ・チーム内で行動計画を共有し、チームとしての実習行動計画を立案する	演習	教室		
8	/	8. 多重課題演習準備 ・実習行動計画に基づき実践 ・多重課題演習概要	校内実習	実習室		
9	/	9. 演習(教員・指導者参加) ・多重課題演習	校内実習	実習室		
10	/	10. チームデブリーフィング(教員参加) ・多重課題演習の振り返り、チームでの対応を考える	演習	実習室 他		
11	/	11. 発表準備 ・チームでの対応を考える(実践方法、資料作成)	演習	実習室 他		
12	/	12. 発表準備 ・発表会概要	演習	実習室 他		
13	/	13. 14発表会(クラスデブリーフィング) ・チームで考えた対応を実践しながら発表する	発表	実習室		
14	/	・クラスで討議し、チームで考えた対応を再考する				
15	/	15. 授業のまとめ 「授業からの学びと実習で取り組みたい目標」をチームでレポートにまとめる	講義 演習	教室		
評価方法	授業時間内に行う小テスト、チーム課題、発表、レポートで評価する。					
教科書	医学書院 系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践① メヂカルフレンド社 看護管理 看護研究 看護制度 メヂカルフレンド社 看護実践マネジメント 医療安全					
参考書						
履修上 の 留意点						

(3) 専門分野【複数の教育内容を併せて教授する科目】

【ねらいと構成】

健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復にむけて、横断的に看護を捉えた考え方を導入する。健康レベル(健康・健康障害と回復過程・終末期)を踏まえ、各発達段階に必要な中範囲理論をもとに多角的な看護の実践方法を学ぶ。
基礎看護学と専門領域をつなぎ、専門領域の対象別看護の土台となる力を身につけることをねらいとする。

専門分野	基礎看護学 11単位					
	地域・在宅看護論 6単位					
	成人看護学 4(6)単位					
	老年看護学 3(4)単位					
	小児看護学 3(4)単位					
	母性看護学 3(4)単位					
	精神看護学 4単位					
	看護の統合と実践 4単位					
	複数の教育内容を併せて教授する科目 5単位		ライフステージと健康支援	1単位	15時間	健康の保持増進と疾病予防
			健康段階別看護	1単位	30時間	健康の回復に向けた看護、健康問題・健康課題を明確にする思考過程
			周術期と看護	1単位	30時間	周術期における特徴的な治療法に対する看護
			終末期と看護	1単位	15時間	その人らしい生活を全うする援助
			リフレクションⅡ	1単位	30時間	自己の看護の振り返りと意味づけ
	臨地実習 23単位		看護の基礎実習Ⅰ	1単位	45時間	
			看護の基礎実習Ⅱ	2単位	90時間	
			看護の基礎実習Ⅲ	2単位	90時間	
			暮らしを支える看護実習	2単位	90時間	
			健康危機状況の看護実習	2単位	90時間	
			人生の最終段階の看護実習	2単位	90時間	
			専門職連携実習	2単位	90時間	
			高齢者の生活を支える看護実習	2単位	90時間	
			こどもの成長発達と健康を支える看護実習	2単位	90時間	
			生命の育みを支える看護実習	2単位	90時間	
			心の健康と生活を支える看護実習	2単位	90時間	
			看護の統合実習	2単位	90時間	
66単位	23単位					

科目群:専門分野【複数の教育内容を併せて教授する科目】

4年度		授業 科目	ライフステージと 健康支援	担当 教員	笹尾 みゆき 石川 暁美 鈴木 陽子 今井 清美	単位(時間数)		1(15)	
第1学年						担当時間数		15	
学習 目的 ・ 目 標	目的 : 各発達段階の健康の保持・増進、疾病の予防、健康回復への支援方法を学ぶ。								
	目標 : ライフステージ各期の、身体的・精神社会的な発達変化と発達課題を理解する。 ライフステージ各期に応じた健康上のニーズに合わせた看護を考える。								
回数	月日	学習内容				方法	場所	担当	課題
1	/	1. 社会の変化と保健に関わる意義・教育、指導とは何か ライフサイクルと発達課題のとらえ方 (エリクソン)				講義	教室	笹尾	
2	/	2. 健康支援と基礎理論 行動・認識変容、行動強化に関する理論 (自己効力感、エンパワメント、アンドラゴジー)				講義	教室	石川	
3	/	3. 健康支援と基礎理論 看護のアセスメントと援助に関する理論 (オレムのセルフケア理論、ヒューマンケアリング理論)				講義	教室	石川	
4	/	4. 小児 理論と発達課題／健康支援の方法 (ピアジェ、ボウルビィ)				講義	教室	鈴木	
5	/	5. 成人 理論と発達課題／健康支援の方法 (ストレス・コーピング)				講義	教室	石川	
6	/	6. 母性 理論と発達課題／健康支援の方法 (パートナーシップ、リプロダクティブヘルスケア)				講義	教室	笹尾	
7	/	7. 老年 理論と発達課題／健康支援の方法 (ハヴィガースト、ニード論)				講義	教室	今井	
8	/	試験					教室	石川	
評価方法		筆記試験で評価します。試験は45分で実施します。 (配点は1・6回の範囲が15分で30点、2・3・5回の範囲が20分で40点、4回・7回が5分で15点です。)							
教科書		医学書院 系統看護学講座『臨床看護総論』基礎看護学4 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ『成人看護学概論』授業2・3・5回目で使用します。							
参考書									
履修上 の 留意点									

科目群: 専門分野【複数の教育内容を併せて教授する科目】

5年度		授業科目	健康段階別看護	担当教員	石川 暁美 今井 清美 鈴木 陽子 笹尾 みゆき	単位(時間数)	1(30)	
第2学年						担当時間数	30	
学習目的・目標	目的: 健康問題・健康課題を明確にする思考過程と、特徴的な治療法に対する看護を学ぶ。 目標: 健康段階を判断し、看護を考える事ができる							
回数	月日	学習内容			方法	場所	担当	課題
1	／	1. 患者の心理の特徴・健康段階の理解と看護の役割			講義	教室	石川	
2	／	2-1. 急性期の特徴と看護			講義	教室	今井	
3	／	2-2. 急性狭心症～心筋梗塞			講義	教室		
4	／	3-1. 慢性期の特徴と看護			講義	教室	石川	
5	／	3-2. 慢性期 肝硬変			講義	教室		
6	／	4-1. 回復期・リハビリテーション期の特徴と看護			講義	教室	石川	
7	／	4-2. 回復期 頸部骨折			講義	教室		
8	／	5-1. 終末期の特徴と看護			講義	教室	今井	
9	／	5-2. 終末期 肺がん			講義	教室		
10	／	6-1. 小児の健康段階の特徴と看護			講義	教室	鈴木	
11	／	6-2. 小児 てんかん発作			講義	教室		
12	／	7-1. 母性の産褥期の特徴と看護			講義	教室	笹尾	
13	／	7-2. 母性 産褥期の看護①			講義	教室		
14	／	7-3. 母性 産褥期の看護②			講義	教室		
15	／	試験、授業のまとめ				教室	石川	
評価方法		試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は100点です。 (配点は1回・4～7回の範囲が20分で35点、2～3回・8～9回の範囲が10分で30点、10～11回の範囲が5分で15点、12～14回の範囲が10分で20点)						
教科書		1回目は①、2,3回目は①②、4,5回目は①③、6,7回目は①④、8,9回目は①⑤ 10,11回目は⑥、12～14回目は⑦⑧を使用します。 ①医学書院 系統看護学講座『臨床看護総論』基礎看護学④ ②医学書院 系統看護学講座『循環器』成人看護学③ ③医学書院 系統看護学講座『消化器』成人看護学⑤ ④医学書院 系統看護学講座『運動器』成人看護学⑩ ⑤医学書院 系統看護学講座『呼吸器』成人看護学② ⑥医学書院 系統看護学講座『小児臨床看護各論』小児看護学② ⑦メディカ出版 ナーシンググラフィカ『概論・リプロダクティブヘルスと看護』母性看護学① ⑧メディカ出版 ナーシンググラフィカ『母性看護学の実践』母性看護学②						
参考書								
履修上の留意点								

科目群:専門分野【複数の教育内容を併せて教授する科目】

5年度	授業科目	周術期と看護	担当教員	石川 暁美、黒柳 日出見、 角尾 真弓、今井 清美、 鈴木 陽子、笹尾 みゆき	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
【石川 暁美】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験17年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(整形外科病棟)での臨床経験に基づいた周術期にある患者の看護の講義により、周術期にある対象の看護援助を学ぶ。				
【黒柳 日出見】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験23年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(手術室病棟)での臨床経験に基づいた術中患者の看護の講義により、周術期にある対象の看護援助を学ぶ。				
【角尾 真弓】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験23年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(外科病棟)での臨床経験に基づいた術後の継続看護の講義により、周術期にある対象の看護援助を学ぶ。				
【笹尾 みゆき】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験16年、産婦人科病棟と外来での臨床経験9年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		助産師として、産婦人科病棟臨床経験に基づいた周術期にある患者の看護の講義により、周術期にある対象の看護援助を学ぶ。				
学習目的・目標	目的: 各発達段階の周術期にある対象の看護援助を学ぶ。 目標: 1. 周術期にある対象の身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2. 手術による生体反応の変化と回復過程を理解する。 3. 手術前の身体や心の準備に対する援助を理解する。 4. 手術後の合併症に対する援助を理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	担当	課題
1	／	1. 周手術期も看護の概要と看護師の役割	講義	教室	石川	
2	／	2. 麻酔の種類と術前・中・後の管理、看護	講義	教室	石川	
3	／	3. 術前の患者の看護 ・術前患者のアセスメント、術前訓練 ・前日・当日の看護	講義	教室	石川	
4	／	4. 術中の患者の看護 ・入室中の看護、麻酔導入時の看護 ・手術室看護師の役割、手術終了時の看護	講義	教室	黒柳	
5	／	5-1. 手術侵襲と生体反応 ・神経・内分泌系の反応、代謝系の反応、Mooreの分類 ・消化器系・呼吸器系への影響	講義	教室	石川	
6	／	5-2. 手術侵襲と生体反応 ・創傷の治癒過程、創傷処置	講義	教室	石川	
7	／	6. 術後合併症の理解	講義	教室	石川	事前課題
8	／	7. 術後の患者の看護 ・術後のベッド作成 ・ドレーン・胃管の管理(処置)、低圧持続吸引の管理、膀胱留置カテーテルの管理	校内実習	実習室	石川	事前課題
9	／	8-1. 術後合併症の観察 ・胃癌の事例術後の観察と看護	校内実習	実習室	石川	事前課題
10	／	8-2. 術後合併症の観察 ・胃癌の事例術後の観察と看護	校内実習	実習室	石川	事前課題

11	／	9. 術後の継続看護 ・術後の継続看護の必要性と実際 ・術後の継続看護の実際 ・継続看護を支える看護師間・多職種連携	講義	教室	角尾	
12	／	10. 高齢者と手術	講義	教室	今井	
13	／	11. 小児とその家族と手術	講義	教室	鈴木	
14	／	12. 帝王切開術を受ける産婦の看護	講義	教室	笹尾	
15	／	試験、授業のまとめ	講義	教室	石川	
評価方法		試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施します。配点は100点です。 (配点は1～3・5～10回の範囲が20分で75点(課題点含む)、4・11～14回は各5分で5点)				
教科書		1～10回目は①～③、8回目は④も使用します。11回目は①②、12回目は⑤、13回目は⑥⑦、14回目は⑧⑨を使用します。 ①メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 『周術期看護』成人看護学④ ②秀和システム 看護の現場ですぐに役立つ術前・術後ケアの基本 ③医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 『消化器』成人看護学 5 ④インターメディカ 『写真でわかる臨床看護技術②』 ⑤メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 『高齢者看護の実践』老年看護学② ⑥医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 『小児看護学概論 小児臨床看護総論』小児看護学1 ⑦メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 『小児の発達と看護』小児看護学① ⑧メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 『母性看護の実践』母性看護学② ⑨メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 『母性看護技術』母性看護学				
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群:専門分野【複数の教育内容を併せて教授する科目】

5年度		授業科目	終末期と看護	担当教員	田境 公治 鈴木 陽子 伊奈 由香利	単位(時間数)	1(15)	
第2学年						担当時間数	15	
【田境 公治】 授業科目に関連した実務経験の内容			看護師臨床経験20年、がん性疼痛看護認定看護師経験3年					
実務経験を活かした実践的な授業内容			がん性疼痛看護認定看護師としての経験に基づいた講義により、終末期にある対象の特徴と援助方法を学ぶ。					
【鈴木 陽子】 授業科目に関連した実務経験の内容			看護師臨床経験14年					
実務経験を活かした実践的な授業内容			病院勤務(小児科病棟)での小児期にある子どもの看護の経験に基づいて、子どもを取り巻く環境や小児看護の考え方を講義・演習に取り入れている。					
【伊奈 由香利】 授業科目に関連した実務経験の内容			看護師臨床経験15年、訪問看護師経験5年					
実務経験を活かした実践的な授業内容			在宅における看取りの経験に基づいた講義により、終末期にある対象の特徴と援助方法を学ぶ。					
学習目的・目標	目的: 対象と家族のQOLの向上に繋げ、その人らしい生を全うするための看護を学ぶ。 目標: 1. 各発達段階における死の受容に対する看護を理解する。 2. がん治療に伴う看護を理解する 3. 終末期患者の緩和ケアを理解する。 4. 看取りと死亡後のケア、家族への対応について理解することができる。							
回数	月日	学習内容			方法	場所	担当	課題
1	/	終末期における患者の理解(成人・老年期における終末期の特徴)			講義	教室	田境	
2	/	終末期における患者の理解(小児における終末期の特徴) 死の受容(周産期、子どもと家族の死の捉え方)			講義	教室	鈴木陽	
3	/	死の受容(成人期・高齢者における死の捉え方)			講義	教室	田境	
4	/	緩和ケア がん性疼痛の緩和ケア			講義	教室	田境	
5	/	看とりの看護 グリーフケア 死亡時の看護			講義	教室	田境	
6	/	看とりの看護 成人の看とり、臨終期の看護、家族ケア 臨死期の対応、家族の参加、患者心理			講義	教室	田境	
7	/	在宅における看とりの看護 自宅で死を迎えることの意味			講義	教室	伊奈	
8	/	試験				教室	田境	
評価方法		試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は100点です。 (配点は1・3～6回の範囲が40分で90点、2回の範囲が5分で10点)						
教科書		1・3～6回は①②、2回は③④、7回は⑤を使用します。 ①メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 『健康危機状況/セルフケアの再獲得』 成人看護学② ②ヌーベルヒロカワ 『緩和・ターミナルケア看護論』 ③医学書院 系統看護学講座 『小児看護学概論 小児臨床看護総論』 小児看護学① ④メディカ出版 ナーシンググラフィカ 『小児の発達と看護』 ⑤南江堂 『在宅看護論』						
参考書								
履修上の留意点								

※実務経験は令和4年4月1日現在

科目群:専門分野【複数の教育内容を併せて教授する科目】

6年度	授業 科目	リフレクションⅡ	担当 教員	小笠原 順美 今井 清美 笹尾 みゆき 鈴木 陽子	単位(時間数)	1(30)		
第3学年					担当時間数	30		
学習目的・目標	目的： 実践した看護を振り返り、自己の課題に気づき、看護師として成長し続けることができる。 目標： 1. 看護実践の中で心が動かされた経験を振り返り、自己の関わりの意味づけができる。 2. 関わりを批判的に分析し、自己の課題を見いだすことができる。 3. 各領域実習における経験からの学びをグループで振り返り、実践に活かせる学びを提案できる。 4. 個人・グループの学びをクラスで共有し、次に活かせる関わりを考えることができる。							
回数	月日	学習内容			方法	場所	担当	課題
1	4/	1. 経験から学ぶ:事例を使いギブスのリフレクション学習サイクルをたどる。 批判的に分析するとは			講義 GW	教室	小笠原	2回目の授業時、看護実践から心が動かされた経験を記述し持参
2	7/	2-1. リフレクション ・心が動かされた実習経験とその時の感情を語る。 ・個人の体験を再構成する。			講義 GW	教室	小笠原	個人の体験を再構成
3・4	7/	2-2. リフレクション:個人で振り返る ・批判的に分析:感情の分析・行為の分析 ・評価:自分の行為は適切であったか 他に選択肢はなかったか ・総合:経験からの学びと自己の課題を明確化			個人 ワーク	教室	小笠原	個人の体験を振り返りレポートでまとめる
5・6	7/	2-3. 実習経験からの学びを共有(クラス発表)			GW	教室	小笠原	発表を聞いて講評
7～9	11/	3. 老年看護学実習経験のリフレクション ・実習経験からの学びをグループで共有 ・グループでテーマを決め、看護実践に活かせる学びを提案 ・クラス発表をとおして学びを共有			GW	教室	今井	グループで学びの提案書を作成
10～12	11/	4. 母性看護学実習経験のリフレクション ・実習経験からの学びをグループで共有 ・グループでテーマを決め、看護実践に活かせる学びを提案 ・クラス発表をとおして学びを共有			GW	教室	笹尾	グループで学びの提案書を作成
13～15	11/	5. 小児看護学実習経験のリフレクション ・実習経験からの学びをグループで共有 ・グループでテーマを決め、看護実践に活かせる学びを提案 ・クラス発表をとおして学びを共有			GW	教室	鈴木	グループで学びの提案書を作成
評価方法	提出物で評価します。(個人のリフレクション40点・各実習のリフレクション各20点)							
教科書	看護の科学社『看護のためのリフレクションスキルトレーニング』							
参考書								
履修上の留意点								

臨地実習の考え方

看護基礎教育における臨地実習は、教育目標を達成するための科目であるとともに、看護学の統合の場として位置づけ、学内で学んだ看護の理論を実践の場を通して、常に論理的思考を基盤に判断力、応用力、問題解決能力を身につけることを目的とする。これらの能力は、学内で健康の法則の知識を学び、校内実習で看護技術を身につけ、臨地において実際の患者に実践することで、統合することができる。また、看護は人間と人間との関係を基盤として成り立つものであり、学生が、臨地実習を通して看護者として望ましい態度を養い、人間的に成長することを期待したい。そこで、学生が自らの課題に主体的に取り組み、看護者としての成長に繋がるように、目標設定して実習に臨む。また、臨地実習は、保健・医療・福祉チームの一員として参加し、チーム内の連携・協働の重要性について実践をととして理解できるように進める。

看護の基礎学実習は、学習進度にあわせて3段階に組み立てる。看護の基礎実習Ⅰでは、指導者の看護に参加して受持患者に必要な日常生活援助を実践し、患者を理解し必要な看護を考える機会とする。看護の基礎実習Ⅱでは、1人の患者を受持ち、看護を実践しながら対象を系統的にとらえ、看護過程を展開する。そして、基礎の看護実習Ⅲでは、臨床判断を活用して対象にとって必要な看護を考える機会とした。急性期病棟と慢性期病棟でそれぞれ実習を行い、対象の健康段階に合わせた臨床判断の視点を学ぶ。

健康危機状況の看護実習、専門職連携実習、人生の最終段階の看護実習は、成人・老年を対象とした実習として設定する。健康危機状況の看護実習では、病棟実習の他に重症患者病床と救急外来の見学実習、手術室看護師の同行実習を計画し、健康危機状況を支える看護を学ぶ。専門職連携実習では、対象の生活を支える援助を通して、多職種連携・協働の実際を学べるように、多職種の同行実習と多職種カンファレンス、チーム会議に参加して、チーム医療について学ぶ。人生の最終段階の看護実習では、対象の看護実践を通して、QOLの向上を目指した援助の実際を学ぶ。病棟実習の他に外来治療センターの実習を計画し、対象を全人的にとらえ、QOLを高めるための看護について考える。

高齢者の生活を支える看護実習では、老人保健施設とグループホームでの実習を計画する。疾患や障害を持ちつつ生活している対象の理解を深め、対象の生活を支える看護援助の実際と看護の役割を学ぶ。

こどもの成長発達と健康を支える看護実習では、病棟実習、保育園実習、児童発達支援センター実習を計画する。病棟実習では、健康障害をもつ子どもとその家族の看護の必要性を理解し、対象に応じた看護を学ぶ。健康なこどもの発達を理解するために保育園実習を、知的障害のある園児の自立にむけた支援の実際を学ぶために児童発達支援センター実習を組み入れる。

生命の育みを支える看護実習では、病院または産院・助産院・子育て支援センターにおける実習を計画し、生命を育み親として成長していく過程を支援する看護の実際を学ぶ。そして、周産期から子育て期にある母子とその家族を中心とした看護に参加して、切れ目ない看護の実際とその支援について考える。

心の健康と生活を支える看護実習では、精神を病む人の特性を理解し、対象に応じた看護を実践する。また、対象との関わりを通して、自己の対人関係の特徴を客観的に洞察し、

自己理解を深める機会とする。

暮らしを支える看護実習では、地域で暮らす療養者と家族への援助の実際と、地域包括ケアシステムにおける看護の役割を学ぶ。訪問看護ステーションの実習を中心とし、在宅療養をしている人とその家族への援助の実際を学ぶ。また地域における保健・医療・福祉の連続性と看護の役割を学べるように患者支援室や地域包括ケア病棟での実習を組み入れる。

統合実習では、看護チームメンバーとして、実務に即した複数患者の看護、看護マネジメント、夜間の看護の実際を経験し、臨床現場における看護を統合的に理解する。そのために、病棟師長、リーダーの同行実習を組み入れ看護マネジメントの実際を学ぶ。また、学生チームで複数の患者を受け持ち、一人の患者の援助の優先度と複数の受持患者の中での優先度を考えることができ、学生チーム内でのカンファレンスを持ちながら、看護の継続性を学ぶことができるように夜間実習も組み入れて、看護を展開する。

教育内容			単位・時間数	時期	実習内容の概要	実習場所
専門分野Ⅰ	基礎看護学実習	基礎看護学実習Ⅰ	1（45）	1年次	患者の療養生活と看護の実際を知る 指導者の看護計画のもと日常生活援助の実践に参加する	西尾市民病院 （成人、老年を対象）
		基礎看護学実習Ⅱ	2（90）	2年次後期	患者の看護を指導者と共に計画的に展開する	西尾市民病院 （成人、老年を対象）
専門分野Ⅱ	成人看護学実習	成人看護学実習Ⅰ	2（90）	2・3年次	健康危機状況にある成人の看護を実践する	西尾市民病院
		成人看護学実習Ⅱ	2（90）	2・3年次	セルフケア再獲得を目指す成人の看護を実践する	西尾市民病院
		成人看護学実習Ⅲ	2（90）	2・3年次	セルフマネジメント支援を必要としている成人の看護を実践する	西尾市民病院
	老年看護学実習	老年看護学実習Ⅰ	2（90）	2・3年次	健康障害をもつ高齢者の看護を実践する	西尾市民病院
		老年看護学実習Ⅱ	2（90）	3年次	施設で生活する高齢者の援助を実践する	西尾老人保健施設、デイケア 米津老人保健施設、デイケア 介護老人保健施設いずみ、デイケア 老人保健施設ひまわり、デイケア
	小児看護学実習	保育園	2（90）	2・3年次	健康な小児の理解と保育の実際を体験する	西尾市内保育園
		白ばら園			障害のある園児の自立にむけての支援の実際を学ぶ。	西尾市立白ばら園
		小児科病棟			健康障害をもつ小児の看護を実践する	西尾市民病院 小児科病棟 碧南市民病院3階病棟（小児科）
	母性看護学実習		2（90）	2・3年次	・妊婦、産婦、褥婦および新生児の看護を指導者と共に実践する ・親になるための準備教育、地域で実施されている育児支援活動に参加して看護者の役割を考える	八千代病院、岡村産科婦人科 山田産婦人科 碧助産院、マザーズ・プレイス かとう助産院 西尾市内子育て支援センター
	精神看護学実習		2（90）	3年次	精神を病む人々の看護を実践する	京ヶ峰岡田病院
統合分野	在宅看護論実習	訪問看護	2（90）	3年次	在宅療養をしている人々への看護の実際を体験する	西尾病院訪問看護ステーション リハビリ訪問看護ステーション西尾 はず訪問看護ステーション 訪問看護ステーションラルゴ しんかわ訪問看護ステーション 訪問看護ステーションあかり やまお訪問看護ステーション 訪問看護ステーションアイナス
		地域連携			地域における保健・医療・福祉の連続性と看護の役割を学ぶ	西尾市民病院 患者支援室 西尾市民病院 地域包括ケア病棟
	統合実習		2（90）	3年次	複数の患者を受け持ち看護を実践する	西尾市民病院